

授業計画(シラバス)

科目名	人間の尊厳と自立			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老い、病、障害などにより生活の支障を生じている人々への生活支援を行う際の尊厳の保持と自立の基本を講義する。 ・個々人の権利としての人権を理解した上で権利侵害の背景、権利擁護、自立の在り方について講義する。 ・事例を通して介護における尊厳の保持と自立支援の方法について演習を通してその方法を明らかにする。 ・「人間」の多角的理解(自己理解、他者理解)についてを説明できる。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支えることができる。 ・介護場面における倫理的課題について対応できる基礎となる能力を身に付け実践できる。 				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	人間の尊厳と利用者主体		1. 人間を理解すること 2. 人間の尊厳という理念 3. 人間の尊厳と利用者主体	
	2	人権思想の潮流とその具現化		1. 人権思想の潮流 2. 人権思想の具現化 3. 基本的人権・自由権と生存権	
	3	人権や尊厳に関する日本の諸規定		1. 幸福追求権(日本国憲法第13条と公共の福祉 2. 生存権(日本国憲法第25条) 3. 社会福祉法・介護保険法・障害者総合支援法	
	4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅰ		1. エリザベス救貧法・新救貧法 2. 貧困と社会福祉援助 3. 戦争と優遇思想	
	5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅱ		1. 世界人権宣言 2. 貧困と様々な社会福祉援助	
	6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅲ		1. ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン 2. QOL 3. 生命倫理	
	7	人権尊重と権利擁護Ⅰ		1. 1人の人間としての利用者の権利 2. 利用者の権利侵害が起こる状況	
	8	人権尊重と権利擁護Ⅱ		1. 権利侵害の背景 2. 権利擁護の視点 3. エンパワメント	
	9	自立の概念の多様性		1. いろいろな視点からみた自立 2. 画一的ではない自立 3. ライフサイクルからみた自立	
	10	自立とは		1. 自立をするのはだれか 2. 自己選択・自己決定 3. 自律・精神的自立	
	11	介護を必要とする人々の自立と自立支援		1. 介護を必要とする人の自立 2. 工夫的自立への支援 3. 自立への意欲と動機づけ	
	12	介護における自立支援について学ぶ		1. 自立支援の考え方(残存機能) 2. 自立と依存と選択 3. 自立支援とICF	
	13	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性		1. 人格 2. 尊厳を損なう介護とは 3. 尊厳を守るための介護とは	
	14	介護における自立支援の実践		1. 尊厳を守る介護の中心にある自立支援 2. 利用者の主体性を大切にした声かけ 3. 利用者の自立支援	
	15	まとめ		まとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	対人関係学			指導担当者名	緑川 浩子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	利用者やその家族との間に信頼関係を築き、よりよい援助サービスを提供するために必要なコミュニケーション能力のあり方を習得する。 1.コミュニケーションの基礎的構造(自己理解、他者理解、自己覚知など)を理解する。 2.コミュニケーションの基本的態度である「受容」「共感」「傾聴」を身に付ける。 3.実践場面で役立つコミュニケーションの知識・技術を学ぶ。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	利用者と援助者との関係		○全人的理解と福祉専門職として備えるべき要件 ○利用者と援助者との間に形成される専門的援助関係	
	2	人間関係とコミュニケーション①		○人間関係の基盤となるもの (「自己理解」「他者理解」「自己覚知」「自己開示」の理解)	
	3	人間関係とコミュニケーション②		○発達心理学からみた人間関係 (人間の発達段階～エリクソンの発達理論)	
	4	人間関係とコミュニケーション③		○社会心理学からみた人間関係 (対人認知～個々人の認知の世界)	
	5	人間関係とコミュニケーション④		○集団力学と人間関係 (集団の意味と集団が持つ力の理解)	
	6	人間関係とコミュニケーション⑤		○人間関係とストレス (ストレスの意味とストレスの種類・症状)	
	7	コミュニケーションの基礎①		○コミュニケーションとは(一方的コミュニケーションと双方向的コミュニケーション) ○エクササイズ:『伝える能力』『聴く能力』のチェック	
	8	コミュニケーションの基礎②		○コミュニケーションの手段(「言語的コミュニケーション」「非言語的コミュニケーション」) ○コミュニケーションの対人距離	
	9	コミュニケーションの基礎③		○対人援助における基本的態度 (「受容」「共感」「傾聴」の重要性、アサーティブ・コミュニケーションとは)	
	10	コミュニケーションの基礎④		○対人援助における基本的態度(バイステックの7つの原則) ○エクササイズ:『事例から7つの原則の重要性を考える』	
	11	コミュニケーションの実際①		○組織におけるコミュニケーション (組織の目的と組織におけるコミュニケーション)	
	12	コミュニケーションの実際②		○介護実践におけるチームマネジメントの意義 (チームマネジメントの意味と役割、多職種・多機関との連携の重要性)	
	13	コミュニケーション技法を活かす①		○介護福祉職のキャリア支援と開発 (研修プログラム～「OJT」「Off-JT」「SDS」など、スーパービジョンの機能と役割)	
	14	コミュニケーション技法を活かす②		○記録としてのコミュニケーション (記録の目的と役割、記録の留意点)	
	15	まとめと振り返り		○ポイントの整理 ○学習成果の振り返り	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	福祉社会を支える制度			指導担当者名	添田 祐司
実務経験					実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年		介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>介護実践に必要な知識という観点から、社会保障制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点および専門職としての基盤となる倫理観を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と社会の関係性を体系的に理解する。 2. 地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識について理解する。 3. わが国の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。 4. 高齢者福祉、障害者福祉および権利擁護等の制度・施策について理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座 社会の理解(中央法規) 『福祉小六法2019』(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	社会と生活のしくみ①		1. 生活を幅広くとらえる 2. 生活の基本機能	
	2	社会と生活のしくみ②		1. ライフスタイルの変化 2. 家族の機能と役割 3. 社会・組織の機能と役割	
	3	社会と生活のしくみ③		1. 地域・地域社会 2. 地域社会における生活支援	
	4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①		1. 地域福祉の発展	
	5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②		1. 地域共生社会 2. 地域包括ケア	
	6	社会保障制度①		1. 社会保障の基本的な考え方	
	7	社会保障制度②		1. 日本の社会保障制度の発達	
	8	社会保障制度③		1. 日本の社会保障のしくみ① 1)実施体制 2)しくみ 3)体系 4)年金保険	
	9	社会保障制度④		1. 日本の社会保障のしくみ② 1)医療保険 2)介護保険 3)雇用保険と労働者災害補償保険 4)各種社会扶助	
	10	社会保障制度⑤		1. 現代社会と社会保障制度	
	11	介護実践に関連する諸制度①		1. 個人の権利を守る制度・施策① 1)虐待防止 2)権利擁護	
	12	介護保険に関連する諸制度②		1. 個人の権利を守る制度・施策② 3)消費者保護 4)その他の制度	
	13	介護実践に関連する諸制度③		1. 保健医療に関する制度・施策 1)保健医療 2)生活習慣病の予防・対策 3)結核・感染症の予防・対策 4)HIV/エイズの予防・対策	
	14	介護実践に関連する諸制度④		1. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 1)生活保護法 2)生活困窮者自立支援法 3)その他	
	15	介護実践に関連する諸制度⑤		1. 地域生活を支援する制度・施策 1)就労支援・雇用促進 2)住生活の支援 3)自殺予防 4)その他	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	生活を支える制度			指導担当者名	添田 祐司
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	社会保障の基本的な考え方と、社会保障制度の大きな変化である介護保険制度、障害者自立支援制度について介護実践に必要な観点から基礎知識を学ぶ。 1. わが国の社会保障の基本的な考え方について理解する。 2. 社会保障の歴史と変遷、しくみについて理解する。 3. 介護保険制度について理解する。 4. 障害者自立支援制度について理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座 社会の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後期	1	社会保障の仕組み		1. 社会保障の基本的な考え方 2. 社会保障制度の発達 3. 社会保障制度のしくみ	
	2	介護保険制度創設の背景と目的		1. 高齢化と要介護状態の進行 2. 介護保険制度の創設と目的 3. 介護保険法改正の背景と方向性	
	3	介護保険制度の仕組み		1. 介護保険制度の仕組みの概要 2. 介護保険の財政 3. 介護保険制度における保険者と被保険者	
	4	介護保険の給付		1. 介護保険給付の対象者 2. 介護保険給付の種類と内容 3. 予防給付	
	5	介護サービス		1. 介護サービス利用までの流れ 2. 地域支援事業 3. 介護事業の運営展開	
	6	介護保険制度にかかわる組織とその役割		1. 国の役割 2. 都道府県・市町村の役割 3. 年金保険・医療保険等の役割	
	7	介護保険制度における専門職の役割		1. 介護福祉士の役割 2. 介護支援専門員の役割 3. その他の専門職員の役割	
	8	介護保険制度の動向		1. 介護保険制度見直しの仕組み 2. 介護保険制度がもっている課題 3. 介護保険制度改正の流れと地域包括ケア	
	9	障害者の自立		1. 障害と障害者の概念 2. 障害者と自立	
	10	障害者総合支援法の制定とねらい		1. 社会福祉基礎構造改革と障害者施策 2. 障害者総合支援法の目的とその特徴	
	11	障害者自立支援制度の理解		1. 障害福祉サービスの種類と内容 2. 障害福祉サービスの利用の流れ 3. 自立支援給付と利用者負担	
	12	障害者自立支援制度における事業と役割		1. 障害者自立支援制度における事業者と施設 2. 障害者自立支援制度における組織、団体の機能と役割 3. 障害者自立支援制度における専門職とその役割	
	13	障害者自立支援制度における組織の役割		1. 国および国民の役割 2. 都道府県・市町村の役割 3. 各指定業者の役割	
	14	障害児・者の要望に合わせた支援		1. 報酬の支弁機関・相談支援機関の役割 2. ライフサイクルからみた支援組織	
	15	障害福祉施策の方向性		1. 障害福祉における国際的潮流 2. 障害者制度改革	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	統計学			指導担当者名	遠藤 雅子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 2年
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	理論を学び、問題解決に向けた基本的な統計方法を学ぶ。 1. エクセルの基礎知識を学ぶ 2. 統計学の基本的知識を学ぶ 3. データの収集、解析を学ぶ				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	なし				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	統計学の基礎		1. 統計学概論について	
	2	エクセルの基礎		1. データベースの作成について	
	3	エクセルの基礎		1. いろいろなグラフの特徴と作成について	
	4	エクセルの基礎		1. クロス集計について	
	5	エクセルの基礎		1. ピボットテーブルについて 2. ピボットグラフについて	
	6	データ分析の流れ		1. 質的データについて 2. 量的データについて	
	7	標本の分数表		1. 標本の分数度について	
	8	平均・分散・標準偏差		1. 平均値について 2. 分散・標準偏差について	
	9	散布図と相関係数		1. 散布図と相関係数について	
	10	回帰直線		1. 回帰直線について	
	11	度数分布表とヒストグラム		1. 度数分布表について 2. ヒストグラムについて	
	12	アンケート調査と統計処理		1. アンケート調査票の作成について	
	13	アンケート調査と統計処理		1. データの収集について	
	14	アンケート調査と統計処理		1. データの統計処理について	
	15	確認試験		筆記試験	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	生活環境学			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験: 有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>生活者の視点に立ち、障がいや疾患を持つ人が安心して生活できる住環境の整備とサポートをするために、関連職種と連携して利用者のコーディネートができるよう専門的知識を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築・医療・福祉関連職種等、多職種協働で住宅改修をする根拠が説明できる 2. 建築・医療・福祉について体系的幅広い知識を身に付け各種専門職と連携を図り適切な用具等が説明できる 3. 福祉用具、諸施策情報を本人、家族に説明ができる 4. 福祉住環境コーディネーター3級を修得できる能力を身に付ける 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト（東京商工会議所）				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	暮らしやすい生活環境を目指してⅠ		少子高齢社会と共生社会への道	
	2	暮らしやすい生活環境を目指してⅡ		福祉住環境整備の重要性と必要性	
	3	暮らしやすい生活環境を目指してⅢ		在宅生活の維持とケアサービス	
	4	健康と自立を目指してⅠ		高齢者の健康と自立	
	5	健康と自立を目指してⅡ		障害者が生活する不自由を克服する道	
	6	バリアフリーとユニバーサルデザイン序論		バリアフリー・ユニバーサルデザインを考える	
	7	バリアフリーとユニバーサルデザイン		生活を支える様々な用具を知る	
	8	福祉住環境コーディネーターの意義Ⅰ		福祉住環境コーディネーター検定試験対策・模擬テストを通して意義・活躍の場を知る①	
	9	福祉住環境コーディネーターの意義Ⅱ		福祉住環境コーディネーター検定試験対策・模擬テストを通して意義・活躍の場を知る②	
	10	福祉住環境コーディネーターの意義Ⅲ		福祉住環境コーディネーター検定試験対策・模擬テストを通して意義・活躍の場を知る③	
	11	安全・安心・快適な住まいⅠ		住まいの整備のための基本技術	
	12	安全・安心・快適な住まいⅡ		生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい①	
	13	安全・安心・快適な住まいⅢ		生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい②	
	14	安心できる住生活とまちづくりⅠ		ライフスタイルの多様化と住まい、安心できる住生活	
	15	安心できる住生活とまちづくりⅡ		安心して暮らせるまちづくり、まとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	基礎心理学			指導担当者名	佐藤 明宏
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	介護サービスを提供する際の基本となる「人間の基礎心理」、「こころのしくみ」について学ぶ。介護の場で「こころに沿った支援」ができるようにこころの働きやしぐみの発達的变化について理解する。 1. 基本的な心理学の概要を知る。 2. こころと脳のはたらきを理解する。 3. こころと脳の障害を理解して、対人援助場面で応用する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	はじめて出会う心理学 改訂版(有斐閣アルマ)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後期	1	心理学とは何か		1. 心理学の定義 2. 学問として心理学の成立 3. 「自分理解」の心理学	
	2	パーソナリティとは		1. パーソナリティの種類、発達 2. 健康なパーソナリティ 3. パーソナリティ障害	
	3	検査実習		性格・人格検査の実施	
	4	発達とは		1. 発達の原理とその要因 2. 発達の段階	
	5	発達とは②		1. 各発達段階の特徴 2. 青年期の課題	
	6	知覚・認知とは		1. 知覚・認知の意味 2. 知覚・認知と脳のはたらき 3. 脳損傷による知覚・認知の障害	
	7	学習とは		1. 条件付け 2. 動機付け	
	8	知能とは		1. 知能とは 2. 思考とは 3. 認知症とは	
	9	記憶とは		1. 記憶の過程 2. 記憶の種類	
	10	コミュニケーションとは		1. コミュニケーションの発達 2. ことばの機能 3. 他者の心の理解	
	11	コミュニケーショントレーニング		1. 傾聴練習	
	12	コミュニケーショントレーニング②		1. マイクロカウンセリング	
	13	適応とは		1. 適応 2. 欲求不満 3. 適応機制	
	14	社会的行動とは		1. 対人認知 2. 社会的態度 3. 集団と個人	
	15	介護職としてのこころ		1. 介護をするときのこころの準備 2. 介護をするときに必要なこころの状態	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	情報処理			指導担当者名	遠藤 雅子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	各種ソフトウェアを使って情報リテラシーの基礎について学ぶ 1. データを取得する基礎能力を身につける。 2. データから情報を解析・読み取りを行う能力を身につける。 3. 情報を発信する能力を身につける。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	word2016クイックマスター、Word文書処理技能認定試験3級問題集 (2016対応) (株式会社ウィネット)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	wordの基本		1. オリエンテーション 2. Wordの起動、画面構成、既存の文書を開く 3. 画面の操作、画面の表示モード、ワードの終了	
	2	文字の入力と編集の基本操作		1. 新規文書の作成、日本語入力システム 2. 文字の入力と変換、単語の登録 3. 文書の保存、文書の選択、文字列の編集とコピー移動	
	3	文書の編集・印刷		1. ページの書式設定、文字の書式設定 2. 文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、行下げと行間の設定 3. 禁則処理、罫線と網掛け、改ページ挿入、ヘッダーとフッター、印刷	
	4	文書の作成		1. 入力オートフォーマット(あいさつ文、段落番号、段落番号の書式設定) 2. 段落番号の書式設定、箇条書きの設定	
	5	文書の作成		1. タブ、インデント、クリックアンドタイプ 2. ビジネス文書の作成例	
	6	表を使った文書の作成		1. 表の作成、表の選択方法、表の編集 2. 表の装飾 3. 文字列から表を作成する	
	7	表を使った文書の作成		1. 表を使った文書の作成	
	8	図形や画像を使った文書の作成		1. 図形の作成、図形の編集 2. 画像の挿入	
	9	図形や画像を使った文書の作成		1. 横書きテキスト、ボックスの挿入 2. ワードアートの挿入	
	10	Word総合学習		総合学習問題 (Word文書処理技能認定試験3級問題集を使用)	
	11	Word総合学習		総合学習問題 (Word文書処理技能認定試験3級問題集を使用)	
	12	Word総合学習		総合学習問題 (Word文書処理技能認定試験3級問題集を使用)	
	13	Word総合学習		総合学習問題 (Word文書処理技能認定試験3級問題集を使用)	
	14	Word総合学習		総合学習問題 (Word文書処理技能認定試験3級問題集を使用)	
	15	確認試験			
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論 I			指導担当者名	小山田 米子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 1. 介護を必要とする高齢者や障害者などの生活を知り、そのニーズや支援の課題を理解する 2. 「尊厳の保持」「自立支援」といった介護における基本的な考え方を学ぶ 3. リハビリテーションやICFの考え方について知る				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(70%)、提出物・発表状況(20%)、出席状況・授業態度(10%)について100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座3 介護の基本 I (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	生活と介護		1. 生活とは何か 2. 生活から介護を考える	
	2	介護とは		1. 介護の歴史①	
	3	介護とは		1. 介護の歴史② 2. 介護福祉士の介護とは	
	4	介護とは		1. 介護の概念 2. 介護問題の背景	
	5	生活支援としての介護		1. 介護の専門性 2. 社会福祉士及び介護福祉士法	
	6	生活支援としての介護		1. 専門職としての介護 2. 求められる介護福祉士像	
	7	生活支援としての介護		1. 自立支援(自立と自律)	
	8	生活支援としての介護		1. 介護サービスのあり方	
	9	生活の理解		1. 生活と時間 2. 生活の要素と特性	
	10	介護を必要とする人の生活		1. 新たな介護問題 2. ノーマライゼーションとQOL	
	11	「その人らしさ」を支える		1. 一人ひとりを尊重する介護 2. 生活ニーズの把握	
	12	利用者と生活環境、事故防止		1. 利用者の生活環境をとらえる 2. 介護における事故防止と拘束	
	13	生活用具・福祉用具		1. 利用者に合った介護機器や生活用品を考える	
	14	安心できる生活の場		1. 「くつろげる」ということ 2. 人的環境としての介護職員の重要性	
	15	ライフスタイルの尊重		1. 食生活における多様性の尊重とその支援技術	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論 I			指導担当者名	小山田 米子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 1. 介護を必要とする高齢者や障害者などの生活を知り、そのニーズや支援の課題を理解する 2. 「尊厳の保持」「自立支援」といった介護における基本的な考え方を学ぶ 3. リハビリテーションやICFの考え方について知る				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(70%)、提出物・発表状況(20%)、出席状況・授業態度(10%)について100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座3 介護の基本 I (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	16	食におけるノーマライゼーション		1. 嗜好品などのニーズに対応できる支援のあり方	
	17	「居場所」という言葉の意味		1. 物理的、精神的な「居場所」	
	18	生活障害の理解		1. どのような視点から「生活障害」を考えるか 2. さまざまな角度から「生活障害」への対応を考える	
	19	生活障害の視点から見た認知症ケア		1. 行動の理由を考えた支援の組み立て	
	20	さまざまな生活支援と意義		1. 介護職としての生活支援	
	21	さまざまな生活支援と意義		1. 家事支援 2. 相談援助	
	22	さまざまな生活支援と意義		1. 演習を通して「よりよい介護」を考える	
	23	尊厳を支える介護		1. 尊厳とは	
	24	尊厳を支える介護		1. 当事者の視点	
	25	尊厳を支える介護		1. QOLとノーマライゼーション	
	26	ICFの考え方		1. 介護におけるICFの考え方	
	27	ICFの考え方		1. ICFの視点に基づくアセスメント、エンパワメント	
	28	介護とリハビリテーション		1. リハビリテーションとは	
	29	介護とリハビリテーション		1. 自立生活と自立支援 2. リハビリテーションの分野	
	30	まとめ		まとめ	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論Ⅱ			指導担当者名	小山田 米子
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	介護福祉士の専門性を支える考え方や法的根拠を学び、介護サービスを提供する場の特性等について理解する。 1. 質の高い生活を送ることができるように支援するための知識を習得する。 2. 尊厳を支える介護の基礎となる考えや関連する思想や制度について学ぶ 3. 介護を提供する場とそのサービスの特性について理解する				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(70%)、提出物・発表状況(20%)、出席状況・授業態度(10%)について100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ、新・介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ 第4版(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後期	1	介護職が行う生活支援Ⅰ		1. 食事 2. 排泄	
	2	介護職が行う生活支援Ⅱ		1. 休息と睡眠 2. 身体清潔	
	3	介護職が行う生活支援Ⅲ		1. 口腔ケア 2. 移動介護	
	4	家事支援とその意義		1. 家事支援における自立支援	
	5	生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義		1. 相談援助の方法 — バイステックの7原則	
	6	利用者を取り巻く人々と地域社会		1. 利用者・家族に対する精神的支援とその意義 2. 社会・文化的な援助とその意義	
	7	地域を基盤とする支援の歴史		1. 戦前から現代までの社会福祉施策や福祉活動の特質について知る	
	8	在宅医療や終末期ケア		1. 地域医療や終末期ケアについて事例から学ぶ	
	9	障害サービスと共生社会		1. 「自立」とは 2. 「当事者」とは 3. 自立生活運動について	
	10	認知症の人の生活を支える		1. 支援の歴史 2. 当事者研究から 3. 地域で暮らし続けるための支援	
	11	世界の社会福祉		1. イギリス、中北欧、アメリカ、韓国の福祉・介護保障について	
	12	人権・権利保障の歴史		1. 「人間らしく生きる」ことの意味 2. 障害者の権利について	
	13	日常生活と社会生活の能力の維持		1. リハビリテーション等の考え方を踏まえた自立に向けた介護	
	14	リハビリテーション専門職との連携		1. チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割と連携	
	15	介護問題の背景と介護福祉士制度		1. 介護問題と介護福祉士制度の制定の経緯	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論Ⅱ			指導担当者名	小山田 米子
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	介護福祉士の専門性を支える考え方や法的根拠を学び、介護サービスを提供する場の特性等について理解する。 1. 質の高い生活を送ることができるように支援するための知識を習得する。 2. 尊厳を支える介護の基礎となる考えや関連する思想や制度について学ぶ 3. 介護を提供する場とそのサービスの特性について理解する				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(70%)、提出物・発表状況(20%)、出席状況・授業態度(10%)について100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ、新・介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ 第4版(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後期	16	求められる介護福祉士像		1. ケアモデル転換と求められる介護福祉士像とは何か	
	17	社会福祉士及び介護福祉士法		1. 社会福祉士及び介護福祉士法の概要を理解する	
	18	社会福祉士及び介護福祉士に関連する諸規定		1. 介護福祉士養成課程についての仕組み	
	19	専門職能団体をもつ役割		1. 専門職能団体の意義と目的を理解する	
	20	専門職能団体としての日本介護福祉士会		1. 日本介護福祉士会の主な事業と活動	
	21	介護実践における倫理		1. 介護に携わる人がもつべき職業倫理	
	22	日本介護福祉士会倫理綱領		1. 日本介護福祉士会倫理綱領に基づく介護福祉士の倫理綱領	
	23	介護サービスの意味と特製		1. 介護福祉士の理念に基づいたサービスを考える	
	24	ケアマネジメントの意味と仕組み		1. ケアマネジメントその意味、成り立ち、流れと仕組み	
	25	介護サービスの歴史の変遷と時代背景		1. 介護福祉の歴史から、特徴、制度の変遷や課題について考える	
	26	介護サービスの種類と提供の場		1. 介護サービスの場とそれぞれの特性	
	27	居宅系サービス提供の場とその特性Ⅰ		1. 高齢者関連の居宅サービスの内容や特性	
	28	居宅系サービス提供の場とその特性Ⅱ		1. 障害者関連の居宅サービスの内容や特性	
	29	入所系サービス提供の場とその特性Ⅰ		1. 高齢者関連の入所サービスの内容や特性	
30	居宅系サービス提供の場とその特性Ⅱ		1. 障害者関連の入所サービスの内容や特性		
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論Ⅲ			指導担当者名	高野 憲一
実務経験					実務経験:
開講時期	通年		対象学科学年		介護福祉学科科 2年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>介護福祉士として必要な倫理観を養い、リスクマネジメント等利用者の安全・安心に配慮した介護ができるようになる。介護リーダーとしての役割を理解し、他職種との連携協働についても知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護者と利用者の安全を守るための留意点を理解する。 2. 介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法について学ぶ。 3. 介護事故や感染症について、予防や対処法を学ぶ。 4. 介護リーダーに期待される役割や能力について学び、連携協働の重要性について理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験(70%)、提出物・発表状況(20%)、出席状況・授業態度(10%)について100点法で点数化して行う。100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	介護職と多職種連携		1. 多職種連携の意義と目的 2. チームアプローチ	
	2	協働職種の理解と連携のあり方 I		1. 介護支援専門員(ケアマネジャー)との連携 2. 社会福祉士・精神保健福祉士との連携	
	3	介護リーダーとしての役割		1. 介護リーダーとは何かが理解できる。	
	4	介護リーダーとしての役割		2. 施設における介護リーダーとしての役割が理解できる	
	5	利用者を取り巻く多職種連携の実際		1. 家族そして専門性を生かしたチームでの介護	
	6	地域連携の意義と目的		1. 地域連携の形 2. 地域連携を進めるために、介護職の取るべき行動、考え	
	7	地域連携に関わる機関の理解		1. 地域連携に関わる機関の機能と役割	
	8	利用者を取り巻く地域連携の実際		1. 連携における介護福祉士と他の職種の役割の把握 2. 地域での活動のポイント	
	9	介護における安全の確保の重要性		1. 尊厳の保持と安全の確保 2. ケアの質の向上とリスクマネジメント	
	10	安全確保のためのリスクマネジメント		1. 介護における安全確保とリスクマネジメント 2. リスクマネジメントに必要な要素	
	11	生活を守る技術としてのリスクマネジメント		1. 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメント	
	12	事故が発生した時の対応		1. 事故が発生した時の報告・記録	
	13	事故防止、安全対策の基礎と実際		1. 生活の中のリスクと対策	
	14	生活の場での感染対策		1. 生活の場での感染対策の基本と標準予防策	
	15	集団生活における感染対策		1. 高齢者介護施設と感染対策	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論Ⅲ			指導担当者名	高野 憲一
実務経験					実務経験:
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>介護福祉士として必要な倫理観を養い、リスクマネジメント等利用者の安全・安心に配慮した介護ができるようになる。介護リーダーとしての役割を理解し、他職種との連携協働についても知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護者と利用者の安全を守るための留意点を理解する。 2. 介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法について学ぶ。 3. 介護事故や感染症について、予防や対処法を学ぶ。 4. 介護リーダーに期待される役割や能力について学び、連携協働の重要性について理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験(70%)、提出物・発表状況(20%)、出席状況・授業態度(10%)について100点法で点数化して行う。100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	16	感染対策とリスクマネジメント		1. 感染管理・衛生管理	
	17	感染対策の基礎知識		1. 感染対策の3原則	
	18	感染対策Ⅰ		1. 結核・インフルエンザ・レジオネラ症・肺炎、気管支炎	
	19	感染対策Ⅱ		1. 感染性胃腸炎・腸管出血性大腸菌感染症、他	
	20	感染症発生時の対応		1. 感染拡大防止と行政への報告	
	21	介護職自身の健康管理		1. 介護職の特徴から見る介護職の心身の健康	
	22	介護従事者の心の健康管理		1. 介護の仕事とストレス 2. 介護職員のストレスケア	
	23	介護従事者の身体の健康管理Ⅰ		1. 腰痛の予防と対策	
	24	介護従事者の身体の健康管理Ⅱ		1. 感染の予防と対策	
	25	介護従事者の身体の健康管理Ⅲ		1. 深夜業・蓄積疲労と生活管理	
	26	安心して働ける環境づくり		1. 労働環境の整備	
	27	快適な職場の重要性		1. 労働環境の改善	
	28	労働安全の基本原則		1. 労働基準法 2. 労働安全衛生法	
	29	介護を取り巻く状況の変化		1. 専門職としての介護福祉士 2. 介護福祉士を育てる基礎教育	
30	生活者として		1. 生活者としての自分を介護福祉士の職業観に活かす		
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術 I			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	介護を必要とする人と支援する立場からのコミュニケーションについて理解するために、介護におけるコミュニケーションの基本と介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション能力を身につける。 1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの基本と、利用者の状況に応じたコミュニケーション技術を学ぶ。 2. 利用者を支える家族とのコミュニケーションに際しての介護者のあり方を理解する。 3. 利用者やその家族とのかかわりにおいて大切な8つのコミュニケーション技法について学ぶ。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術(中央法規)、 ケア・コミュニケーション(ウイネット)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	介護におけるコミュニケーションの意義・目的		1. 介護におけるコミュニケーションの意義と目的□ 2. 介護におけるコミュニケーションの展開過程	
	2	介護におけるコミュニケーションの対象		1. コミュニケーションの果たす役割 2. 介護福祉職の職務とコミュニケーション 3. 介護福祉職のコミュニケーション支援の対象	
	3	援助関係とコミュニケーション		1. 援助関係(ラポール)の特徴 2. 援助関係を構築するための原則□ 3. 介護における援助関係を意識したコミュニケーション	
	4	コミュニケーション態度に関する基本技術		1. 傾聴(「聞く」と「聴く」) 2. 受容□ 3. 共感□	
	5	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本		1. 言語コミュニケーション□ 2. 非言語コミュニケーション、準言語コミュニケーション	
	6	目的別のコミュニケーション技術		1. 動機づけ 2. ものの見方に変化を生み出す技術(リフレーミング)□ 3. 意思決定を支援するためのコミュニケーション	
	7	集団におけるコミュニケーション技術		1. マズローの欲求階層説 2. 集団の定義と種類□ 3. 自然な集団と意図的な集団	
	8	コミュニケーション障害への対応の基本		1. コミュニケーション障害とは 2. コミュニケーション障害の原因□ 3. コミュニケーション支援の基本	
	9	視覚障害のある人への支援		1. 視覚障害の特徴 2. 基本的なコミュニケーション支援□ 3. コミュニケーション支援のツール	
	10	聴覚障害のある人への支援		1. 聴覚障害の特徴 2. 基本的対応□ 3. コミュニケーション支援のツール	
	11	構音障害のある人への支援		1. 構音障害の特徴 2. 基本的対応□ 3. コミュニケーション支援のツール	
	12	失語症の人への支援		1. 失語症の特徴 2. 基本的対応□ 3. 心理的問題への配慮	
	13	認知症の人への支援		1. 認知症の特徴 2. 基本的対応□ 3. 進行度合いに応じたコミュニケーション技術	
	14	うつ病・抑うつ状態の人への支援		1. うつ病・抑うつ状態の特徴□ 2. 基本的対応(リフレーミング)	
	15	統合失調症の人への支援		1. 統合失調症の特徴 2. 日常生活コミュニケーションの支障□ 3. 基本的対応	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>コミュニケーション障害の状態や原因について理解し、利用者の特性に応じたコミュニケーション能力を身につける。また他職種とのコミュニケーションや、記録・報告の重要性を理解する。</p> <p>1. 利用者の抱えるコミュニケーション障害の状態や、原因について理解する。 2. 利用者やその家族、他職種とのチームのコミュニケーション能力を身につける。 3. チーム内におけるコミュニケーションを円滑に進めるための記録、報告、会議等の重要性を理解する。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術(中央法規) ケア・コミュニケーション(ウイネット)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	知的障害のある人への支援		1. 知的障害の特徴 2. 知的障害児(者)の学習の特徴と支援口 3. 知的障害児(者)のコミュニケーションの特徴と支援技術	
	2	発達障害のある人への支援		1. 発達障害の特徴 2. 基本的対応口 3. 発達障害がもたらす心理的問題への配慮	
	3	高次脳機能障害のある人への支援		1. 高次脳機能障害の特徴 2. 高次脳機能障害がもたらす日常生活への支障口 3. 基本的対応	
	4	重症心身障害のある人への支援		1. 重症心身障害の特徴 2. 基本的対応口 3. 重症心身障害がもたらす心理的問題への配慮	
	5	家族との関係づくり		1. 家族の存在の重要性 2. 家族の気持ちの理解口 3. 家族の意向表出の支援	
	6	家族へ助言・指導・調整		1. 家族を支援する視点 2. 意向と自立支援の関係口 3. 利用者と家族の意向が対立する場合の対応	
	7	家族関係と介護ストレスへの対応		1. 家族関係の介護への影響 2. 家族が持つ介護ストレス口 3. 介護ストレスに対応したコミュニケーション	
	8	チームのコミュニケーションとは		1. チームにおけるコミュニケーションの意義・目的 2. 多職種協働チームのコミュニケーション 3. 介護の実践場面におけるチームのコミュニケーション	
	9	報告・連絡・相談の技術		1. 報告・連絡・相談の意義 2. 報告・連絡・相談の技術口 3. 報告・連絡・相談を促進する環境づくり	
	10	記録の技術Ⅰ		1. 記録の意義 2. 記録の目的口 3. 記録の種類	
	11	記録の技術Ⅱ		1. 記録の方法と書き方口 2. 記録の実際(介護記録、チェック表、家族との連絡記録、ヒヤリハット・事故報告記録等)	
	12	会議・議事進行・説明の技術		1. 会議の意義と目的 2. 会議の議事進行口 3. プレゼンテーション	
	13	事例検討に関する技術		1. 事例検討を行う意義・目的 2. 事例検討会場面の流れ口 3. 事例検討会での注意点	
	14	情報の活用と管理のための技術		1. 介護実践における情報活用の重要性 2. ICTの活用口 3. 個人情報の保護と活用	
	15	まとめ		1. コミュニケーション技術総括	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	手話			指導担当者名	佐藤 邦子・久保 睦子
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:		演習:○		実習: 実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解する。 ①手話や指文字を学び、手話で会話する楽しさを体験する ②聴覚障害者の歴史や文化を学ぶ。 ③手話の学習を通して福祉の心(相手を思いやる心)を学ぶ。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	「手話を学ぼう」「ろう者との対話のために」(一社)福島県聴覚障害者協会				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後期	1	導入		1. ビデオ鑑賞「私の大切な家族」を観て感想文を書く 2. 講義「聴覚障害者のコミュニケーションについて」 3. 実技 指文字 名前の表し方	
	2	手話講座①		第1講座 伝えあってみましょう□ 第2講座 名前を紹介しましょう	
	3	手話講座②		第3講座 家族を紹介しましょう	
	4	手話講座③		第4講座 数字を覚えましょう□ 講義「聴覚障害者の基礎知識」	
	5	手話講座④		第5講座 趣味について話しましょう	
	6	手話講座⑤		第6講座 仕事について話しましょう	
	7	手話講座⑥		第7講座 住所を紹介しましょう□ 講義「聴覚障害者の生活と福祉」	
	8	手話講座⑦		第8講座 まとめ(自己紹介)	
	9	手話講座⑧		第9講座 時制について話しましょう	
	10	手話講座⑨		第10講座 会話してみよう① ～旅行について～	
	11	手話講座⑩		第11講座 会話してみよう② ～医療について～□ 講義「聴覚障害者の医療・介護について」	
	12	手話講座⑪		第12講座 会話してみよう③ ～学校について～	
	13	手話講座⑫		第13講座 会話してみよう④ ～職場について～□ 第14講座 会話してみよう⑤ ～災害について～	
	14	手話講座⑬		第15講座 まとめ □ 手話劇発表	
	15	まとめ		自己紹介の復習□ 手話スピーチ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	家事支援技術 I			指導担当者名	上國料 多希
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>高齢者や障がい者の実際に応じた食生活について学び、対象となる方に応じた食事や食形態を考えることが出来るようになる。</p> <p>1.食の現状を理解し、基本的な栄養・食品・調理に関して学ぶ 2.高齢者・障害者に適した食品を選択できるとともに状態に合わせた食事形態を学ぶ 3.調理や食品衛生についての基本的な知識を身につけ、演習を通して調理技術を学ぶ 4.自立に向けた調理や高齢者の状態に合わせた食形態を理解し、選択実践できるように学ぶ</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	栄養の基本がわかる図解辞典(成美堂出版)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	栄養の現状 I		食生活の現状と変遷及び日本人の栄養源や自給率を理解する①	
	2	栄養の現状 II		食生活の現状と変遷及び日本人の栄養源や自給率を理解する②	
	3	暮らしのなかの栄養学		栄養についての基本を学ぶ	
	4	暮らしのなかの栄養学		栄養素の種類を知り働きを理解する	
	5	身体活動エネルギー・代謝		消化吸収の仕組み・基礎代謝・体脂肪コントロール	
	6	ライフスタイルと栄養		人の年代別の栄養、それぞれのライフステージに見合った食事内容	
	7	調理実習について I		調理の基本を知り、各食品の調理による変化を理解する	
	8	調理実習について II		調理器具の取り扱い・身だしなみ・食中毒について	
	9	介護食について I		介護食の基本について	
	10	介護食について II		介護の現場で使用されている食材(とろみ剤など)の使用手法や形態を知る	
	11	調理実習(基本介護食)		同一食材メニューにて常食・やわらか食・ゼリー食・ミキサー食を展開し調理実習	
	12	調理実習(基本介護食)		同一食材メニューにて常食・やわらか食・ゼリー食・ミキサー食を展開し調理実習	
	13	症状別栄養 I		糖尿病・高血圧症・骨粗鬆症・生活習慣病等の疾病について理解する	
	14	症状別栄養 II		疾病の症状に合わせた食事内容・治療食への配慮を考える	
	15	調理実習(症状に合わせた献立)		糖尿病食・高血圧食の調理実習(単位数での食事、塩分制限の食事を理解する)	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	家事支援技術 I			指導担当者名	上國料 多希
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>高齢者や障がい者の実際に応じた食生活について学び、対象となる方に応じた食事や食形態を考えることができるようになる。</p> <p>1.食の現状を理解し、基本的な栄養・食品・調理に関して学ぶ 2.高齢者・障害者に適した食品を選択できるとともに状態に合わせた食事形態を学ぶ 3.調理や食品衛生についての基本的な知識を身につけ、演習を通して調理技術を学ぶ 4.自立に向けた調理や高齢者の状態に合わせた食形態を理解し、選択実践できるように学ぶ</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	栄養の基本がわかる図解辞典(成美堂出版)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	16	調理実習(症状に合わせた献立)		糖尿病食・高血圧食の調理実習(単位数での食事、塩分制限の食事を理解する)	
	17	食事における間食(おやつ)の位置づけ		高齢者に望ましいおやつメニュー、おやつ形態について理解する	
	18	郷土食と行事食		一年を通しての行事食事メニュー、郷土に根付いた食事メニューについて理解する	
	19	調理実習(おやつ)		高齢者や嚥下困難者むけのおやつメニュー展開による調理実習	
	20	調理実習(おやつ)		高齢者や嚥下困難者むけのおやつメニュー展開による調理実習	
	21	調理実習(郷土食)		食欲や楽しみにつながる郷土食の調理実習	
	22	調理実習(郷土食)		食欲や楽しみにつながる郷土食の調理実習	
	23	調理実習(行事食)		四季折々の中で迎える行事におけるメニューの調理実習	
	24	調理実習(行事食)		四季折々の中で迎える行事におけるメニューの調理実習	
	25	家事支援 I		調理における支援とは何かできる支援を考える①	
	26	家事支援 II		調理における支援とは何かできる支援を考える② 限られた食材で様々な献立を展開する、献立作成	
	27	調理実習(工夫調理)		限られた食材を使い、その場で加齢や症状に配慮し調理を行なう	
	28	調理実習(工夫調理)		限られた食材を使い、その場で加齢や症状に配慮し調理を行なう	
	29	調理実習(総合調理)		食の現状をふまえた総合調理実習・まとめ	
30	調理実習(総合調理)		食の現状をふまえた総合調理実習・まとめ		
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	家事支援技術Ⅱ			指導担当者名	小山田 米子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 2年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	自立に向けた家事の介助と、それに関する知識、技術を学び、利用者の状態、状況に応じた介護のあり方を習得する。 1. 生活支援としての家事支援の意義と目的を理解する。 2. 自立に向けた住居環境の整備について理解し、実践できるように学ぶ。 3. 自立に向けた衣類寝具・裁縫について理解し、実践できるように学ぶ。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新介護福祉全書6 生活支援技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	自立生活を支える家事支援		オリエンテーション□ 1. 家事の意義と目的	
	2	家事支援の介護術(衣類・寝具)		1. 衣類の補修(裁縫)の支援技術	
	3	日常生活の中の家庭		1. 日本の家庭生活の変化□ 2. 生活設計の考え、家計の管理	
	4	被服生活の基本		1. 自己表現、生きがいに通じる被服 2. 被服の管理(素材・洗濯・保管等) 3. 被服の補修	
	5	被服と皮膚の衛生保持・管理		1. 被服による衛生保持 2. 被服による物理的・化学的刺激□ 3. 身体機能低下と着やすい服	
	6	家事支援の介護術(衣類・寝具)		1. 衣類の補修(裁縫)の支援技術	
	7	家事支援の介護術(衣類・寝具)		1. 衣類の補修(裁縫)の支援技術	
	8	家事支援の介護術(衣類・寝具)		1. 衣類の補修(裁縫)の支援技術	
	9	家事支援の介護術(衣類・寝具)		1. 衣類の補修(裁縫)の支援技術	
	10	家事支援の介護術(衣類・寝具)		1. 衣類の補修(裁縫)の支援技術	
	11	家事支援の介護術(洗濯)		1. 洗濯の支援とは何か□ 2. 利用者宅での洗濯の仕方と進め方	
	12	家事支援の介護術(掃除・ゴミ捨て)		1. 掃除の支援□ 2. ゴミ捨ての支援	
	13	家事支援の介護術(衣類・寝具)		1. 衣類の補修(裁縫)の支援□ 2. 衣類・寝具の衛生管理の支援	
	14	家事の介護におけるチームケア		1. 他職種との連携 2. 在宅の場合の連携□ 3. 施設の場合の連携	
	15	まとめ		1. まとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術 I			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:		演習:○		実習: 実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>日常のなかでの「身じたく・移動」の意義と目的について理解し、利用者の状況に応じた介護が行えるようアセスメントや他職種との連携等介護に必要な知識と技法を身につける。</p> <p>1. 利用者の状態に応じた身じたくの介護についてアセスメントし、適切な介護が行えるようにする。 2. 利用者の状態に応じた移動の介護についてアセスメントし、適切な介護が行えるようにする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座6・7 生活支援技術 I・II (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション 日常生活支援技術の意義と目的		1. オリエンテーション、日常生活支援技術とは 2. 日常生活支援技術を身に付ける意義と目的	
	2	生活環境の理解		1. 介護実習室における使用方法が理解できる 2. 介護者としての身だしなみが整えられる。	
	3	衣類の管理方法		1. 衣類のたたみ方等の管理の仕方が理解できる	
	4	日常生活支援技術の意義と目的		1 日常生活支援技術を身につける意義と目的(他職種との関係性を理解する)	
	5	ボディメカニクスの理解		1. ボディメカニクスの理解をすることで、からだの使い方が理解できる。	
	6	ボディメカニクスを意識したベッドメイキング		1. ベッドメイキングを通して生活環境について理解する 2. ベッドメイキングの方法を理解する	
	7	ボディメカニクスを意識したベッドメイキング		1. ボディメカニクスの原則を知る。 2. ボディメカニクスを意識したベッドメイキングができる	
	8	ボディメカニクスを意識したベッドメイキング		1. ボディメカニクスの原則を知る。 2. ボディメカニクスを意識したベッドメイキングができる	
	9	身じたくの意義と目的		1. 自立生活を支える身じたくの介護	
	10	衣類の着脱の介助(座位)		1. 介護を必要とされるかたの座位が正しい姿勢であることが分かる。 2. 一部介助を要する利用者の衣類の着脱の介助が理解できる	
	11	ボディメカニクスを意識したベッドメイキング		1. ボディメカニクスを意識したベッドメイキングができる	
	12	衣類の着脱の介助(座位)		1. 介護を必要とされるかたの座位が正しい姿勢であることが分かる。 2. 一部介助を要する利用者の衣類の着脱の介助が理解できる	
	13	身じたくにおける介護技術		1. 整容におけるメイクの知識と方法	
	14	身じたくに関する他職種との協働		1. 整容における介護、口腔ケア 2. 協働する職種との連携の仕方	
	15	アセスメントに必要な状態の理解		1. 麻痺の障害部位 2. 関節可動域	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術 I			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>日常のなかでの「身じたく・移動」の意義と目的について理解し、利用者の状況に応じた介護が行えるようアセスメントや他職種との連携等介護に必要な知識と技法を身につける。</p> <p>1. 利用者の状態に応じた身じたくの介護についてアセスメントし、適切な介護が行えるようにする。</p> <p>2. 利用者の状態に応じた移動の介護についてアセスメントし、適切な介護が行えるようにする。</p>				
評価方法 評価基準	出席状況・提出物状況・授業態度・筆記試験 A:80~100 B:70~79 C:60~69 D:59点以下(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座6・7 生活支援技術 I・II (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	16	ICFの考え方や移動・移乗の介護のアセスメントの関係		1. 心身機能・身体構造 2. 活動・参加	
	17	移動・移乗		1. 移動・移乗の介護における基本的な視点 2. ボディメカニクスを活用した介助法	
	18	体位変換		1. 自立度別身体の移動(上方移動、水平移動、側臥位(横を向く)) 2. 上方移動における介護の留意点	
	19	衣類の着脱の介助(臥位)		1. 体位変換の技術をもとに、ベッド上での一部介助び方法が理解できる	
	20	衣類の着脱の介助(臥位)		1. 体位変換の技術をもとに、ベッド上での一部介助・全介助の方法が理解できる	
	21	安楽な体位の保持		1. 褥瘡の予防について 2. 安楽な体位におけるアセスメントの視点	
	22	安楽な体位の保持のための介護の実際		1. 体位別の介護の手順 2. 体位を保持するための道具・用具	
	23	体位変換 起き上がり~端座位~立位		1. 自立度別起き上がりから端座位へさらに立位へ 2. 起き上がりから端座位さらに立位における介護の留意点	
	24	車いすの介助		1. 車いすの基本構造 2. 車いす介助におけるアセスメントの視点	
	25	自立度別車いすの介助		1. ベッド⇄車いすの介助 2. 段差・坂道・エレベーター等の介助	
	26	自立度別車いすの介助		1. ベッド⇄車いすの介助 2. 段差・坂道・エレベーター等の介助	
	27	歩行介助		1. 歩行介助におけるアセスメントの視点 2. 自立度別歩行介助	
	28	道具・用具の種類		1. ベッド・ベッド周り・リフト、移乗器等 2. 車いす・歩行補助用具等	
	29	他職種の役割と協働		1. 移動・移乗の介護に関する他職種の役割 2. よりよい生活支援に向けて、他職種と連携することの意味	
	30	まとめ		1. まとめ	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術Ⅱ			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 1年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>日常のなかでの「食事・清潔・排泄・睡眠の介護」の意義と目的について理解し、利用者の状況に応じた介護が行えるようアセスメントや他職種との連携等介護に必要な知識と技法を身につける。</p> <p>1. 利用者の状態に応じた食事・清潔・排泄・睡眠の介護についてアセスメントし、適切な介護が行えるようになる。</p> <p>2. 利用者の状態に応じた適切な介護を行えるよう多職種との連携の重要性が理解できる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。</p> <p>100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	最新 介護福祉全集 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	食事の意義と目的		1. 食べることは生きること 2. 「おいしく食べる」を支える	
	2	食事介護におけるアセスメントの視点		1. 身体的、精神的側面 2. 日常生活活動、環境的側面	
	3	食事における介護の実勢①		1. 自立度が高い利用者の介護の手順が理解できる	
	4	食事における介護の実際②		1. 一部介助を要する利用者の介護の手順が理解できる	
	5	食事における介護の実際③		1. 全介助を要する利用者の介護の手順が理解できる 2. 介護時の留意点	
	6	他職種の役割と協働		1. 食事の介助における他職種との協働の視点 2. 食事の介護に関連する他職種の役割(緊急時・脱水等の対応)	
	7	排泄の意義と目的		1. 自立した生活を支える排泄介護とは 2. 排泄におけるアセスメント	
	8	排泄における介護技術①		トイレでの排泄介護ができる	
	9	排泄における介護技術②		ポータブルでの排泄介護ができる	
	10	排泄における介護技術②		ポータブルでの排泄介護ができる	
	11	排泄における介護技術③		差し込み便器を使用した排泄介護ができる	
	12	排泄における介護技術③		差し込み便器を使用した排泄介護ができる	
	13	排泄における介護技術④		おむつでの排泄介護ができる	
	14	排泄における介護技術④		おむつでの排泄介護ができる	
	15	入浴・清潔保持の意義と目的		1. 入浴や清潔が関係する心と身体の健康 2. 入浴・清潔保持の主な効果	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術Ⅱ			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験				実務経験:	
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>日常のなかでの「食事・清潔・排泄・睡眠の介護」の意義と目的について理解し、利用者の状況に応じた介護が行えるようアセスメントや他職種との連携等介護に必要な知識と技法を身につける。</p> <p>1. 利用者の状態に応じた食事・清潔・排泄・睡眠の介護についてアセスメントし、適切な介護が行えるようになる。</p> <p>2. 利用者の状態に応じた適切な介護を行えるよう多職種との連携の重要性が理解できる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。</p> <p>100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	最新 介護福祉全集 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	16	入浴・清潔保持におけるアセスメント		1. ICFの考え方と入浴・清潔保持介護のアセスメント 2. 事故の予防と異常時の対応ができる	
	17	清潔保持の介護(洗髪)②		1. ベッド上での洗髪の介護の方法が理解できる	
	18	清潔保持の介護(洗髪)②		1. ベッド上での洗髪の介護の方法が理解できる	
	19	清潔保持の介護(全身清拭)		1. 全身清拭の介護の方法が理解できる	
	20	清潔保持の介護(全身清拭)		1. 全身清拭の介護の方法が理解できる	
	21	入浴介助の実際Ⅰ		1. 自立度が高い利用者の介助手順 2. 一部介助を要する利用者の介助	
	22	入浴介助の実際Ⅱ		1. 全介助を要する利用者の普通浴槽を使った介助 2. 全介助を要する利用者の機械浴槽を使った介助	
	23	入浴関連道具・用具		1. 浴室、浴槽の種類と選び方 2. 介護入浴用椅子・マット等	
	24	他職種の役割と協働		1. 入浴・清潔保持の介護に関する他職種の役割 2. 医療職および他職種との協働が必要な場合の連携の実際	
	25	睡眠の意義と役割		1. 自立支援を支える睡眠の介護と、睡眠におけるアセスメント	
	26	睡眠における介護技術		1. 安眠介助の方法が理解できる。(足浴・手浴等)	
	27	睡眠における介護技術		1. 安眠介助の方法が理解できる。(足浴・手浴等)	
	28	睡眠における他職種との連携		1. 他職種協働における介護職の役割 2. 不眠時の介助、睡眠と薬	
	29	まとめ		まとめ	
30	まとめ		まとめ		
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術Ⅲ			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>日常のなかでの様々な障がいをもつ利用者に必要な介護の意義と目的について理解し、利用者の状況に応じた介護が行える。また、アセスメントや他職種との連携等介護に必要な知識と技法を身につける。</p> <p>1. 利用者の障害に応じたアセスメントし、適切な介護が行えるようになる。 2. 利用者の状態をモデル体験をすることで求められる介護が理解できる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション		介護技術の振り返り。授業概要を通し学習のねらいが理解できる	
	2	利用者の状況・状態に応じた生活支援技術とは		利用者像の理解と介護福祉士に求められること。介護技術の振り返り	
	3	緊急時の対応の知識と技術		緊急時の対応について	
	4	応急手当の実際		応急手当の実際を想定して実践し理解する	
	5	応急手当の実際		応急手当の実際を想定して実践し理解する	
	6	緊急時の対応の知識と技術		想定される事故と予防の視点(事例を通して)理解する	
	7	緊急時の対応の知識と技術		想定される事故と予防の視点(事例を通して)理解する	
	8	緊急時の対応の知識と技術		想定される事故と予防の視点(事例を通して)理解する	
	9	緊急時の対応の知識と技術		想定される事故と予防の視点(事例を通して)理解する	
	10	緊急時の対応の知識と技術		想定される事故と予防の視点(事例を通して)理解する救急救命士科との合同授業	
	11	緊急時の対応の知識と技術		想定される事故と予防の視点(事例を通して)理解する救急救命士科との合同授業	
	12	運動機能障害者等の様々な方の生活支援の方法		運動機能障害のある人の生活環境(ベッドメイキング等)を整え、生活援助に伴うアドバイスができる。	
	13	障がいに応じた生活支援技術		ハンドマッサージ等の手技を修得し、さまざまな障がいのある方への支援ができる	
	14	障がいに応じた生活支援技術		ハンドマッサージ等の手技を修得し、さまざまな障がいのある方への支援ができる	
	15	障がいに応じた生活支援技術		ハンドマッサージ等の手技を修得し、さまざまな障がいのある方への支援ができる	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術Ⅲ			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科科 2年
授業方法	講義:		演習:○		実習: 実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<p>日常のなかでの様々な障がいをもつ利用者に必要な介護の意義と目的について理解し、利用者の状況に応じた介護が行える。また、アセスメントや他職種との連携等介護に必要な知識と技法を身につける。</p> <p>1. 利用者の障害に応じたアセスメントし、適切な介護が行えるようになる。 2. 利用者の状態をモデル体験をすることで求められる介護が理解できる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	16	内部障害に応じた介護	内部障害の特徴が理解できる。(内部障害における医療的ケアと薬の管理について)		
	17	運動機能障害者等の様々な方の生活支援の方法	運動機能障害のある人の生活環境(ベッドメイキング等)を整え、生活援助に伴うアドバイスができる。		
	18	運動機能障害者等の様々な方の生活支援の方法	運動機能障害のある人の生活環境(ベッドメイキング等)を整え、生活援助に伴うアドバイスができる。		
	19	運動機能障害者に応じた生活場面と支援の方法③	生活場面と支援のポイント(脊髄損傷)を生活援助の場面を通して理解する		
	20	運動機能障害者に応じた生活場面と支援の方法②	生活場面と支援のポイント(関節リウマチ)を生活援助の場面を通して理解する		
	21	視覚・聴覚障がいに応じた介護①	視覚障がい者の生活支援と生活環境(点眼の方法について) 聴覚・言語障がいと生活支援が理解できる		
	22	重複障がい者に応じた介護	盲ろう者の生活支援と環境整備		
	23	視覚障がいに応じた介護②	視覚障がい者の移動の方法が理解できる		
	24	視覚障がいに応じた介護③	視覚障がい者の移動の方法が理解できる。 近隣での買い物等で障がい者の介護を理解する。		
	25	運動機能障害者に応じた生活場面と支援の方法①	生活場面と支援のポイント(脳血管障害者)を生活援助の場面を通して理解する		
	26	運動機能障害者に応じた生活場面と支援の方法②	生活場面と支援のポイント(脳血管障害者)を生活援助の場面を通して理解する		
	27	運動機能障害者に応じた生活場面と支援の方法③	生活場面と支援のポイント(パーキンソン病・脊髄損傷等)を生活援助の場面を通して理解する		
	28	内部障害に応じた介護	生活習慣病障がい者の生活支援が理解できる		
	29	内部障害に応じた介護	心臓・腎臓障がい者の日常生活支援が理解できる		
30	障害に応じた生活支援技術	知的・発達障がいに応じた介護が理解できる			
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護予防学			指導担当者名	千葉 智子・梅津 豪人
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 2年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	集中講座
学習到達目標	高齢者一人ひとりの身体機能を活かした介護予防の支援方法を身につける。 1. 高齢社会における介護予防の必要性和社会的意義を理解する。 2. 高齢期における介護予防について理解を深める。 3. 筋力向上トレーニング、転倒予防、低栄養予防、口腔機能向上などのトレーニング方法を身につける。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	介護予防 東京都老人総合研究所				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	フィットネス総論		1. 介護予防における指導者の在り方	
	2	トレーニング概論・トレーニング処方		トレーニング概論・トレーニング処方の理解	
	3	老年学・介護予防概論		1. 老年学の概要 2. 介護予防の概要と介護予防が目指す社会の変化	
	4	行動科学		1. 行動科学の概要と健康行動の定着を促す具体的な手法	
	5	介護予防評価学		1. 介護予防評価の概要と評価法の習得	
	6	介護予防統計学		1. データの種類別の区別と基本的な検定方法	
	7	リスクマネジメント		1. リスクマネジメントの概要と対処法	
	8	高齢者筋力向上トレーニング①		1. 高齢者における筋力向上トレーニングの概要と包括的高齢者運動トレーニングプログラムの習得	
	9	介護予防評価学		1. 介護予防評価の概要と評価法の習得	
	10	高齢者筋力向上トレーニング②		1. 高齢者における筋力向上トレーニングの概要と包括的高齢者運動トレーニングプログラムの習得	
	11	高齢者筋力向上トレーニング③		1. 高齢者における筋力向上トレーニングの概要と包括的高齢者運動トレーニングプログラムの習得	
	12	高齢者筋力向上トレーニング④		1. 高齢者における筋力向上トレーニングの概要と包括的高齢者運動トレーニングプログラムの習得	
	13	転倒予防①		1. 転倒予防の概要と転倒予防プログラムの習得	
	14	失禁予防①		1. 尿失禁予防の概要と尿失禁予防プログラムの習得	
	15	転倒予防②		1. 転倒予防の概要と転倒予防プログラムの習得	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護予防学			指導担当者名	千葉 智子・梅津 豪人
実務経験				実務経験:	
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	集中講座
学習到達目標	高齢者一人ひとりの身体機能を活かした介護予防の支援方法を身につける。 1. 高齢社会における介護予防の必要性和社会的意義を理解する。 2. 高齢期における介護予防について理解を深める。 3. 筋力向上トレーニング、転倒予防、低栄養予防、口腔機能向上などのトレーニング方法を身につける。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	介護予防 東京都老人総合研究所				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	16	失禁予防①		1. 尿失禁予防の概要と尿失禁予防プログラムの習得	
	17	高齢者栄養改善活動		1. 高齢者栄養改善活動の概要と栄養改善プログラムの習得	
	18	口腔機能向上①		1. 高齢者の口腔機能の概要と口腔機能向上プログラムの習得	
	19	口腔機能向上②		1. 高齢者の口腔機能の概要と口腔機能向上プログラムの習得	
	20	フレイル・サルコペニア予防特論 うつ・閉じこもり		1. フレイル・サルコペニアの概要と予防法 2. 高齢期のうつと社会的孤立、閉じこもりの概要	
	21	認知症予防①		1. 認知症予防の概要と認知症予防プログラムの習得	
	22	認知症予防②		1. 認知症予防の概要と認知症予防プログラムの習得	
	23	地域づくりによる介護予防論 高齢者の社会参加と介護予防		1. 地域づくりによる介護予防の意義と専門職の役割 2. 社会参加が心身の健康に及ぼす影響	
	24	介護予防・日常生活支援総合事業と 介護予防コーディネーション		1. 介護予防コーディネーションと介護予防事業評価の概要	
	25	日常生活支援の中での介護予防の実際		様々な演習を通して、日常における介護予防の方法が理解出来る	
	26	日常生活支援の中での介護予防の実際		様々な演習を通して、日常における介護予防の方法が理解出来る	
	27	日常生活支援の中での介護予防の実際		様々な演習を通して、日常における介護予防の方法が理解出来る	
	28	日常生活支援の中での介護予防の実際		様々な演習を通して、日常における介護予防の方法が理解出来る	
	29	日常生活支援の中での介護予防の実際		様々な演習を通して、日常における介護予防の方法が理解出来る	
	30	まとめ		まとめ	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション理論			指導担当者名	佐藤 喜也
実務経験					実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年		介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>介護や医療の現場で、「より良い生活・人生」を達成するために欠くことのできないレクリエーションに関する諸活動を実践するために必要とされる人間や集団の理解、自主的・主体的な取り組みを促す動機づけ、他者とのコミュニケーションのあり方等について、その基礎となる理論を学ぶ。</p> <p>1. レクリエーションの意義とレクリエーション運動の歴史・使命・仕組み、制度等について理解する。 2. 現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況、少子高齢社会の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。 3. 楽しさを原動力とし、心を元気にするレクリエーション活動について理解を深めるとともに、自主的・主体的な取り組みを促す方法について理解を深める。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	レクリエーション・インストラクター養成テキスト(公益財団法人日本レクリエーション協会発行)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	楽しさと心の元気づきの理論1		○授業内容についてのガイダンス ○レクリエーションの主旨 ○楽しさをとおした心の元気づき	
	2	良好な集団づくりの理論と実際1		○レクリエーション活動の二つの楽しさの理解 ○良好な集団づくりとレクリエーション○ 集団の理解とレクリエーション活動をとおした良好な集団づくり	
	3	良好な集団づくりの理論と実際2		○集団内のコミュニケーションの促進とレクリエーション ○良好な集団づくりの方法として のアイスブレイキング ○アイスブレイキングのプログラムモデル1	
	4	良好な集団づくりの理論と実際3		○アイスブレイキングのプログラムモデル2□○アイスブレイキングの効果を高める支援 技術 ○レクリエーション援助の基本技術としてのアイスブレイキング	
	5	楽しさと心の元気づきの理論2		○ライフステージとレクリエーション ○子どもを育む地域の絆づくりとレクリエーション ○ 高齢者の支える地域の絆づくりとレクリエーション	
	6	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論		○自主的・主体的な取り組みを促すための仕組みとレクリエーション ○成功体験を文えめ うレクリエーション主体のかかわり ○レクリエーション・ワークの総体としてのレクリエ ーション支援	
	7	リスクマネジメントの理論		○リスクマネジメントの心構え ○リスクマネジメントの方法□ ○リスクの予知と対応	
	8	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論と実際1		○ホスピタリティと信頼関係づくり ○レクリエーション支援におけるコミュニケーションの 重要性 ○信頼関係づくりの方法	
	9	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論と実際2		○信頼関係づくりの方法としてのホスピタリティ ○ホスピタリティの意識と配慮 ○ホスピタリティのための自己開示	
	10	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論と実際3		○ホスピタリティと交流分析 ○心をひとつにするコミュニケーション技術□ ○ホスピタリティとしての表現	
	11	セラピューティックレクリエーションに関する理論1		○セラピューティックレクリエーション概論 ○アセスメントの重要性とA-PIEプロセス ○プ ログラム立案の考え方	
	12	セラピューティックレクリエーションに関する理論2		○介護領域におけるモデルプログラム1 ○人間交流の段階的深まりについての考え方 ○人間交流の段階的深まりモデルに従ったプログラム	
	13	セラピューティックレクリエーションに関する理論3		○介護領域におけるモデルプログラム2 ○活動分析の考え方□ ○活動分析に基づいたアクティビティの展開	
	14	セラピューティックレクリエーションに関する理論4		○介護領域におけるモデルプログラム3 ○TRの考え方に基づく重層的プログラムの考 え方 ○TRの考え方に基づく処方型とカフェテリア型のプログラム	
	15	レクリエーション概論		○レクリエーションとは何か ○レクリエーション運動の歴史□ ○レクリエーション運動を支える制度	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション活動援助法			指導担当者名	佐藤 喜也
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>人の尊厳を守るという観点から、本人の自立・自律を尊重し、見守りを含め、レクリエーション主体である介護サービス利用者の潜在能力を引き出すことのできるレクリエーション支援の方法を身につける。</p> <p>1. コミュニケーションを促進しレクリエーションを可能にする素材となる基礎実技と、それを展開するための基礎的支援技術を身に付ける。</p> <p>2. ホスピタリティトレーニングとアイスブレイキング実習をとおして、他者とコミュニケーションをとる態度や、集団の中でコミュニケーションを促進する方法を身に付ける。</p> <p>3. 参加者の相互作用を活用し、現場のモチベーションを上げる支援技術を身に付ける。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度、プログラム展開案の作成・実施における評価を総合し、100点法で点数化して行う。</p> <p>100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C</p> <p>・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	レクリエーション・インストラクター養成テキスト(公益財団法人日本レクリエーション協会発行)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	レクリエーション支援の実際 1		アイスブレイキングに学ぶ基礎的支援技術1	
	2	レクリエーション支援の実際 2		アイスブレイキングに学ぶ基礎的支援技術2	
	3	レクリエーション活動の習得 1		介護福祉領域におけるモデルプログラムの体験1	
	4	レクリエーション活動の習得 2		介護福祉領域におけるモデルプログラムの体験2	
	5	レクリエーション活動の習得 3		レクリエーション活動における基礎実技の習得1	
	6	レクリエーション活動の習得 4		レクリエーション活動における基礎実技の習得2	
	7	レクリエーション活動の習得 5		レクリエーション活動における基礎実技の習得3	
	8	レクリエーション活動の習得 6		レクリエーション活動における基礎実技の習得4	
	9	レクリエーション活動の習得 7		レクリエーション活動における基礎実技の習得5	
	10	レクリエーション活動の習得 8		レクリエーション活動における基礎実技の習得6	
	11	レクリエーション活動の習得 9		レクリエーション活動における基礎実技の習得7	
	12	レクリエーション活動の習得 10		レクリエーション活動における基礎実技の習得8	
	13	レクリエーション支援の実際 3		成功体験を積み重ねるハードル設定1	
	14	レクリエーション支援の実際 4		成功体験を積み重ねるハードル設定2	
	15	レクリエーション支援の実際 5		参加者の相互作用の活用方法1	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション活動援助法			指導担当者名	佐藤 喜也
実務経験					実務経験:
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>人の尊厳を守るという観点から、本人の自立・自律を尊重し、見守りを含め、レクリエーション主体である介護サービス利用者の潜在能力を引き出すことのできるレクリエーション支援の方法を身につける。</p> <p>1. コミュニケーションを促進しレクリエーションを可能にする素材となる基礎実技と、それを展開するための基礎的支援技術を身に付ける。</p> <p>2. ホスピタリティトレーニングとアイスブレイキング実習をとおして、他者とコミュニケーションをとる態度や、集団の中でコミュニケーションを促進する方法を身に付ける。</p> <p>3. 参加者の相互作用を活用し、現場のモチベーションを上げる支援技術を身に付ける。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度、プログラム展開案の作成・実施における評価を総合し、100点法で点数化して行う。</p> <p>100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C</p> <p>・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	レクリエーション・インストラクター養成テキスト(公益財団法人日本レクリエーション協会発行)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	16	レクリエーション支援の実際 6		参加者の相互作用の活用方法2	
	17	レクリエーション支援の実際 7		成功体験を積み重ねるためのアレンジ3	
	18	レクリエーション支援の実際 8		成功体験を積み重ねるためのアレンジ4	
	19	レクリエーション支援演習 1		レクリエーション支援技術の一体的活用1	
	20	レクリエーション支援演習 2		レクリエーション支援技術の一体的活用2	
	21	レクリエーション支援演習 3		レクリエーション活動展開案の作成1	
	22	レクリエーション支援演習 4		レクリエーション活動展開案の作成2	
	23	レクリエーション支援演習 5		レクリエーションプログラム展開案の作成1	
	24	レクリエーション支援演習 6		レクリエーションプログラム展開案の作成2	
	25	レクリエーション支援演習 7		プログラム展開案の実施と評価1	
	26	レクリエーション支援演習 8		プログラム展開案の実施と評価2	
	27	レクリエーション支援演習 9		プログラム展開案の実施と評価3	
	28	レクリエーション支援演習 10		プログラム展開案の実施と評価4	
	29	レクリエーション支援演習 11		プログラム展開案の実施と評価5	
30	レクリエーション支援演習 12		プログラム展開案の実施と評価6		
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程 I			指導担当者名	大久保 悦美・海津 智宏
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>介護サービス利用者が望む生活支援のための課題を明確にし、より良い支援ができるように介護計画を作成し、実践できるようにする。</p> <p>1. 介護過程の展開、計画、作成において利用者の状態や意思を尊重した介護が提供できるようにする。 2. 利用者や家族から話を聴き、自ら観察し、情報収集できるようにする。 3. 利用者のニーズを満たすための援助の方法を理解する。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	介護過程とは		1. 介護過程の意義・目的 2. 介護過程の全体像	
	2	生活支援における介護過程の必要性		1. 介護福祉士の役割 2. 生活上のニーズ	
	3	必要な知識・技術を考える①		1. イラストから支援に必要な知識や技術を考える	
	4	必要な知識・技術を考える②		1. イラストから支援に必要な知識や技術を考える	
	5	介護過程とICF		1. 介護過程とICF	
	6	介護過程におけるアセスメント①		1. アセスメントの視点 2. ICFを活用した情報収集	
	7	介護過程におけるアセスメント②		1. 情報の判断と分析 2. ニーズの明確化	
	8	介護過程におけるアセスメント③		1. 事例を基にアセスメントについて理解を深める	
	9	介護過程におけるアセスメント④		2. 事例を基にアセスメントについて理解を深める	
	10	計画の立案①		1. 介護計画の意義 2. 介護計画に含まれる要素と留意点	
	11	計画の立案②		1. 長期目標と期間、短期目標と期間 2. 支援内容・方法の決定	
	12	前期まとめ		1. アセスメント、計画立案について確認する	
	13	ケアカンファレンス		1. ケアカンファレンスの目的・意義・方法	
	14	計画の実施①		1. 実際の事例から適切な介護計画について知る	
	15	計画の実施②		1. 実施のための準備、留意点 2. 実施状況の把握	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程 I			指導担当者名	大久保 悦美・海津 智宏
実務経験					実務経験:
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	介護サービス利用者が望む生活支援のための課題を明確にし、より良い支援ができるように介護計画を作成し、実践できるようにする。 1. 介護過程の展開、計画、作成において利用者の状態や意思を尊重した介護が提供できるようにする。 2. 利用者や家族から話を聴き、自ら観察し、情報収集できるようにする。 3. 利用者のニーズを満たすための援助の方法を理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	計画の実施③	1. 実施記録の意義・目的・要素 2. 情報を扱う際の留意事項、記録を書くときの留意事項		
	17	介護過程の評価	1. 評価の意義と目的、内容 2. 評価の方法と視点		
	18	評価記録の書き方	1. 事例を基にした実施評価表の作成、考察		
	19	介護過程とチームアプローチ①	1. ケアマネジメントの全体像		
	20	介護過程とチームアプローチ②	1. チームアプローチにおける介護福祉士の役割		
	21	介護過程の実際①	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	22	介護過程の実際②	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	23	介護過程の実際③	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	24	介護過程の実際④	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	25	介護過程の実際⑤	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	26	介護過程の実際⑥	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	27	介護過程の実際⑦	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	28	介護過程の実際⑧	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	29	介護過程の実際⑨	1. 事例を基に介護計画について理解を深める		
	30	まとめ	1. まとめ		
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程Ⅱ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験: 有
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	6単位	総時間数	90時間	週時間数	前期4時間・後期2時間
学習到達目標	<p>事例を用い基本的な介護の知識、技術を踏まえた上で、適切な生活支援を行うための介護過程の展開方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事例を用い介護計画立案、チームアプローチ等に必要な具体的な方法を学ぶ。 アセスメント、介護計画の立案、実施、評価、再アセスメントができ、そのプロセスを繰り返す必要があることを理解する。 介護過程の実践を通して多職種と連携する必要性、記録の重要性を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座9 介護過程(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	「介護過程」展開の実際①		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	2	「介護過程」展開の実際②		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	3	「介護過程」展開の実際③		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	4	「介護過程」展開の実際④		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	5	「介護過程」展開の実際⑤		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	6	「介護過程」展開の実際⑥		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	7	「介護過程」展開の実際⑦		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	8	「介護過程」展開の実際⑧		1. 事例を基に介護過程について理解を深める	
	9	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ-②)		1. 対象者の情報を基にアセスメントについて確認する	
	10	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ-②)		1. 実習Ⅱ-②で展開した対象者のアセスメントについて振り返る	
	11	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ-②)		1. 実習Ⅱ-②で展開した対象者の支援について振り返る	
	12	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ-②)		1. 実習Ⅱ-②で展開した対象者の介護過程について振り返る	
	13	介護過程の実践的展開①		1. 実習Ⅱ-②の事例を通してアセスメントについて理解を深める	
	14	介護過程の実践的展開②		1. 実習Ⅱ-②の事例を通してアセスメントについて理解を深める	
	15	介護過程の実践的展開③		1. 実習Ⅱ-②の事例を通してアセスメントについて理解を深める	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程Ⅱ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験: 有
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	6単位	総時間数	90時間	週時間数	前期4時間・後期2時間
学習到達目標	<p>事例を用い基本的な介護の知識、技術を踏まえた上で、適切な生活支援を行うための介護過程の展開方法を学ぶ。</p> <p>1. 事例を用い介護計画立案、チームアプローチ等に必要な具体的な方法を学ぶ。 2. アセスメント、介護計画の立案、実施、評価、再アセスメントができ、そのプロセスを繰り返す必要があることを理解する。 3. 介護過程の実践を通して多職種と連携する必要性、記録の重要性を理解する。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座9 介護過程(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	16	介護過程の実践的展開④		1. 実習Ⅱ-②の事例を通してアセスメントについて理解を深める	
	17	介護過程の実践的展開⑤		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して介護計画について理解を深める	
	18	介護過程の実践的展開⑥		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して介護計画について理解を深める	
	19	介護過程の実践的展開⑦		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して介護計画について理解を深める	
	20	介護過程の実践的展開⑧		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して介護計画について理解を深める	
	21	介護過程の実践的展開⑨		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して支援について振り返る	
	22	介護過程の実践的展開⑩		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して支援について振り返る	
	23	介護過程の実践的展開⑪		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して支援について振り返る	
	24	介護過程の実践的展開⑫		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して支援について振り返る	
	25	介護過程の実践的展開⑬		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して適切な支援について考える	
	26	介護過程の実践的展開⑭		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して適切な支援について考える	
	27	介護過程の実践的展開⑮		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して適切な支援について考える	
	28	介護過程の実践的展開⑯		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して適切な支援について考える	
	29	介護過程の実践的展開⑰		1. 実習Ⅱ-②の事例を通して適切な支援について考える	
	30	前期まとめ		1. 前期の学習について振り返る	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程Ⅱ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験: 有
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	6単位	総時間数	90時間	週時間数	前期4時間・後期2時間
学習到達目標	<p>事例を用い基本的な介護の知識、技術を踏まえた上で、適切な生活支援を行うための介護過程の展開方法を学ぶ。</p> <p>1. 事例を用い介護計画立案、チームアプローチ等に必要な具体的な方法を学ぶ。</p> <p>2. アセスメント、介護計画の立案、実施、評価、再アセスメントができ、そのプロセスを繰り返す必要があることを理解する。</p> <p>3. 介護過程の実践を通して多職種と連携する必要性、記録の重要性を理解する。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。</p> <p>100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座9 介護過程(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	31	介護過程の実践的展開⑩		1. 実習Ⅱ－②の事例を通して介護過程について理解を深める	
	32	介護過程の実践的展開⑨		1. 実習Ⅱ－②の事例を通して介護過程について理解を深める	
	33	介護過程の実践的展開⑧		1. 実習Ⅱ－②の事例を通して介護過程について理解を深める	
	34	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ－①)		1. 対象者の情報を基にアセスメントについて確認する	
	35	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ－①)		2. 対象者の情報を基に介護計画について確認する	
	36	「介護過程」展開の実際①		1. 事例から適切な支援について学ぶ	
	37	「介護過程」展開の実際②		1. 事例から適切な支援について学ぶ	
	38	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ－①)		1. 実習Ⅱ－①で展開した対象者の介護過程について振り返る(模擬カンファレンス)	
	39	「介護過程」展開の実際(実習Ⅱ－①)		1. 実習Ⅱ－①で展開した対象者の介護過程について振り返る(模擬カンファレンス)	
	40	介護過程の実践①		1. 事例を基にアセスメントを実施する	
	41	介護過程の実践②		1. 事例を基にアセスメントを実施する	
	42	介護過程の実践③		1. 事例を基に介護計画を立案する	
	43	介護過程の実践④		1. 事例を基に介護計画を立案する	
	44	介護過程の実践⑤		1. 事例を基に展開した介護過程について振り返る	
	45	まとめ		1. まとめ	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅰ			指導担当者名	大久保 悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科 1年	
授業方法	講義:		演習:○		実習:	
実技:						
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護実習に向けての準備や心構え、実習施設について理解し、他科目での学びを介護実習でどのように結び付け活用するのか理解する。 1. 「実習Ⅰ」と「実習Ⅱ」の枠組みについて理解する。 2. 実習の目的や意義について理解する。 3. 実習先・施設の体系、種類について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規)					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。					
学期	ターム	項目			内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的			1. 介護福祉士養成教育の全体像□「介護総合演習」と「介護実習指導」□ 3. 介護総合演習の五つの目的を理解する	
	2	介護実習の意義と目的 介護実習の種類			1. 介護実習の必要性と流れ 2. 実習Ⅰ、実習Ⅱの目的と主な内容□ 3. 実習Ⅰの場の利用者を取り巻く人や地域社会との関係を理解する	
	3	実習前の事前学習			1. 事前学習の意義と目的□ 2. 介護実習開始までの流れと事前学習	
	4	通所介護 実習Ⅰ－①準備			1. 通所介護サービスの理解、援助の視点 2. 通所介護実習での学習ポイント 3. 実習Ⅰ－①準備(実習目標の検討)	
	5	実習Ⅰ－①事前学習			1. 実習生としてのマナー□ ・身だしなみ ・あいさつ、言葉遣い、電話のかけ方	
	6	実習Ⅰ－①事前学習			1. 文書、記録の書き方(話し言葉と書き言葉)□ 2. 実習記録や日誌のまとめ方(ロールプレイ～実習に必要な記録の書き方～)	
	7	実習Ⅰ－①直前の学習			1. 実習目標、実習計画の確認	
	8	実習Ⅰ－①オリエンテーション			1. 実習担当者による実習前オリエンテーション	
	9	実習Ⅰ－①直前の学習			1. 実習目標、実習計画の確認 2. 実習記録の配布□ 3. 実習記録の書き方確認	
	10	実習Ⅰ－①後の学習			1. お礼状作成 2. 実習後の振り返り□ 3. 実習報告会に向けた準備	
	11	実習Ⅰ－①後の学習			1. 実習報告会に向けた準備	
	12	実習Ⅰ－①後の学習			1. 実習報告会に向けた準備	
	13	実習Ⅰ－①後の学習			1. 実習報告会	
	14	実習Ⅰ－②に向けた事前学習			1. 施設サービスの理解と援助の視点	
	15	まとめ			1. 前期の学びについて振り返る	
	16					
履修上の留意点						
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。						

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅱ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科 1年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	利用者の状況や施設種別に応じて実習に取り組むことが出来る。介護実習における自己の課題に課題に取り組むことが出来る。 1. 事前学習の意義と目的を理解する。 2. 実習を通して利用者の生活を観察することが出来る。 3. 実習において対人関係を意識したコミュニケーションをとることが出来る。 4. 実習終了後のまとめ学習について理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	前期振り返り		1. 前期の実習での学びについて振り返る	
	2	実習Ⅰ－②に向けた事前学習		1. プロセスレコード演習	
	3	実習Ⅰ－②に向けた事前学習		1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・ロールプレイを通して記録の書き方を学ぶ	
	4	実習Ⅰ－②に向けた事前学習		1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・ロールプレイを通して記録の書き方を学ぶ	
	5	実習Ⅰ－②に向けた事前学習		1. 実習計画の作成	
	6	実習Ⅰ－②に向けた事前学習		1. 実習記録の配布 2. 実習記録の書き方確認口 3. 実習課題の確認	
	7	実習Ⅰ－②事後学習		1. 実習後の確認(記録、課題の提出等)口 2. お礼状の作成	
	8	実習Ⅰ－②事後学習		1. 実習報告会に向けた準備	
	9	実習Ⅰ－②報告会		1. 実習報告会	
	10	実習Ⅰ－②報告会		1. 実習報告会	
	11	実習Ⅰ－②事後学習		1. プロセスレコードの振り返り(演習)	
	12	実習Ⅰ－②事後学習		1. プロセスレコードの振り返り(演習)	
	13	実習Ⅰ－③に向けた事前学習		1. 訪問介護サービスの理解口 2. 実習目標の検討	
	14	実習Ⅰ－③に向けた事前学習		1. 訪問時におけるマナー	
	15	まとめ		1. 後期及び1年次の学びについて振り返る	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅲ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験: 有
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科 2年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>学外実習において、利用者の自立支援や人としての尊厳を支える介護過程の展開が適切にできるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅱのねらい・目的・目標を理解する。 2. 授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための取り組みができる。 3. 担当ケースのアセスメントから利用者の生活課題を明らかにし、介護計画の立案・実施・評価ができる。 4. 事例研究を意識した実習の進め方の理解、考察を行い、事例研究をまとめることができる。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	実習Ⅱ-②に向けた事前学習		1. 実習Ⅱのねらいを理解する 2. 実習Ⅱのモデルを具体的にイメージし、理解を深める 3. 実習Ⅱ-②目標の検討	
	2	実習Ⅱ-②に向けた事前学習		1. 演習を通して実際に担当することを想定した介護過程を展開する	
	3	実習Ⅱ-②に向けた事前学習		1. 事例を用い、模擬カンファレンスを実施する	
	4	実習Ⅱ-②に向けた事前学習		1. 実習計画の作成	
	5	実習Ⅱ-②に向けた事前学習		1. 実習記録の配布口 2. 実習課題の確認	
	6	実習Ⅱ-②実習中の学習		1. 実習の取り組み、課題について確認する	
	7	実習Ⅱ-②実習中の学習		1. 実習の取り組み、課題について確認する	
	8	実習Ⅱ-②事後学習		1. お礼状作成口 2. 実習後の振り返り	
	9	事例研究		1. 事例研究とは口 2. 事例研究の進め方	
	10	事例研究		1. 事例研究を通して実習Ⅱ-②について振り返る	
	11	事例研究		1. 事例研究を通して実習Ⅱ-②について振り返る	
	12	事例研究		1. 事例研究を通して実習Ⅱ-②について振り返る	
	13	事例研究		1. 事例研究を通して実習Ⅱ-②について振り返る	
	14	介護実習Ⅱ-①事前学習		1. 実習Ⅱ-①実習内容確認口 2. 実習Ⅱ-①目標の検討	
	15	まとめ		1. 前期実習のまとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅳ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科 2年
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>介護実習において各自の課題を整理し、目標をまとめる。また実習での様々な場面に対応する能力を養い、終了後に報告書を作成し、介護実習と教科学習のまとめをおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な介護現場で活躍できる介護福祉士として、必要なマナー、知識、理論等を統合、応用し実習に取り組む。 2. 担当ケースのアセスメント・介護計画の立案・実施・評価ができる。 3. 事例研究についてまとめ発表する。 4. 実習の振り返りを通して自身の介護観を育て、専門職としての技術・知識を高める必要性を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	実習Ⅱ－①事前学習		1. 実習Ⅱ－①目標再確認口 2. 実習記録や日誌のまとめ方(記録の添削を通して記録の書き方の確認)	
	2	実習Ⅱ－①事前学習		1. 実習記録の配布口 2. 実習課題の確認	
	3	事例研究		1. 校内研究発表	
	4	事例研究		1. 校内研究発表	
	5	実習Ⅱ－①実習中の学習		1. 実習の取り組み、課題について確認する	
	6	実習Ⅱ－①事後学習		1. 多職種との連携について振り返る	
	7	実習Ⅱ－①事後学習		1. 実習報告会に向けて、実習の取り組みについて振り返る	
	8	実習Ⅱ－①報告会		1. 実習報告会	
	9	実習Ⅱ－①報告会		1. 実習報告会	
	10	総合的な演習の展開		1. 事例を用いた総合的な演習の展開	
	11	総合的な演習の展開		1. 事例を用いた総合的な演習の展開	
	12	総合的な演習の展開		1. 事例を用いた総合的な演習の展開	
	13	総合的な演習の展開		1. 事例を用いた総合的な演習の展開	
	14	総合的な演習の展開		1. 事例を用いた総合的な演習の展開	
	15	まとめ		1. 後期及び2年間のまとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護実習 I-①	指導担当者名			
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	介護福祉学科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位数	介護実習 I-①, I-②, I-③合わせて3単位	総時間数	24時間	週時間数	24時間
学習到達目標	利用者とのかかわりを通して、介護を必要とする方を知る。 1. 介護を必要とする方について知る。 2. 介護を必要とする方の様々な生活環境を学ぶ。 3. 介護福祉士としての役割を知る。				
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況、実習指導者評価、実習担当教員評価を総合的に判断し評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)				
使用教材	なし				
授業外学習の方法					
学期	日	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。		
			2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。		
			3. 施設内および関連部署の見学を行う。		
		利用者とのかかわり	1. 様々な利用者とかかわり、コミュニケーションの基礎を学ぶ。		
			2. 利用者とかかわりを振り返ることで、自己理解を深める。		
	2	介護福祉士の基本的な生活支援の見学	1. 実習施設での基本的な生活支援を見学し学ぶ。		
			2. 介護福祉士の仕事についてイメージできる。		
	3	介護を学ぶ者としての態度・マナー	1. 実習をさせていただく者としての、みだしなみ・言葉づかいができる。		
			2. 実習指導者や職員の指導や助言を聴く施設を身につける。		
		3. メモの取り方や記録の方法を学ぶ。			
履修上の留意点					
出席率が5分の4に満たない場合は、単位を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護実習 I-②	指導担当者名		
実務経験		実務経験:		
開講時期	後期	対象学科学年	介護福祉学科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
単位数	介護実習 I-①, I-②, I-③合わせて3単位	総時間数	96時間 週時間数 40時間	
学習到達目標	利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活について考える。 1. 生活の場について学ぶ。 2. 個々の生活や個性について学ぶ。 3. その人らしさを理解するためのアセスメントの視点について学ぶ。 4. 生活支援に必要な介護技術を学ぶ。			
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況、実習指導者評価、実習担当教員評価を総合的に判断し評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)			
使用教材	なし			
授業外学習の方法				
学期	週	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。 2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。 4. 実習目標の確認および、毎日の目標設定の提示と確認 5. 実習記録の取り扱い・提出方法について	
		利用者とのかかわり	1. 実習中様々な利用者とかかわり、実際にコミュニケーションを図る。 2. 利用者とかかわりの場面をプロセスレコードにとり自己分析する。	
	2	レクリエーション体験	1. 指導者の指導のもと実際にレクリエーションを体験し学ぶ。	
	3	基本的な生活支援を体験する	1. 施設での基本的な生活支援を見学する。 2. 指導者の指導のもと実際に日常生活支援技術を体験し学ぶ。	
履修上の留意点				
出席率が5分の4に満たない場合は、単位を与えない。				

授業計画(シラバス)

科目名	介護実習 I-③		指導担当者名				
実務経験				実務経験:			
開講時期	後期	対象学科学年	介護福祉学科 年				
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:			
単位数	介護実習 I-①, I-②, I-③合わせて3単位	総時間数	24時間	週時間数	24時間		
学習到達目標	さまざまな生活の場での生活支援を理解し、介護福祉士の専門性を考える。 1. 訪問介護にて、介護を必要とする方の生活環境や地域とのつながりを理解する。 2. 介護を必要とする方や家族とのかかわりから、生活支援について理解する。 3. 介護職の役割や多職種連携について理解する。 4. 介護職としてのマナーを身につける。						
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況、実習指導者評価、実習担当教員評価を総合的に判断し評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)						
使用教材	なし						
授業外学習の方法							
学期	ターム	項目	内容・準備資料等				
授業計画 後期	1	オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。 2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。				
		利用者とのかかわり	1. 利用者やその家族とかかわり、コミュニケーション技術を深める。 2. 利用者とかかわりを通して、対象理解・アセスメント能力を深める。				
	2	レクリエーション体験	1. 介護福祉士としてのみだしなみ・言葉づかい・態度を身につける。				
	3	基本的な生活支援を体験する	2. 介護福祉士として多職種協働の意味を理解し行動できる。 3. 記録の重要性・目的を理解し、支援内容や状況に応じた内容・結果を記録できる。				
履修上の留意点							
出席率が5分の4に満たない場合は、単位を与えない。							

授業計画(シラバス)

科目名	介護実習Ⅱ-①			指導担当者名		
実務経験					実務経験:	
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科2年	
授業方法	講義:	演習:		実習:○	実技:	
単位数	3単位	総時間数	144時間	週時間数	40時間	
学習到達目標	利用者とのかかわりを深め介護過程を用いて、その人らしい生活を送るためのニーズについて理解する。 1. 個に応じた介護過程を展開し、介護を必要とする方を総合的にとらえることができる。 2. その人らしさを生活を継続するために必要な生活支援について理解する。 3. 介護職と各職種との連携の意義や方法について理解を深める。					
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況、実習指導者評価、実習担当教員評価を総合的に判断し評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)					
使用教材	なし					
授業外学習の方法						
学期	週	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	オリエンテーション		1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。 2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。 4. 実習目標の確認および、毎日の目標設定が自らできる。 5. 実習記録の取り扱い・提出方法について自ら確認し、実践できる。		
		介護過程		1. 利用者のニーズを理解し、介護計画の立案・実施・評価の過程を学ぶ。 2. 介護過程記録をもとに一連の介護過程について理解する。		
	2	申し送り・ミーティング等の参加		1. 申し送りやミーティング等に参加し、施設や利用者の状況に応じた行動が取れる。		
		サービス担当者会議、カンファレンス等の見学		1. 施設内での介護計画の立案・実施・評価の一連の過程を学ぶ。 2. 施設ケアにおける多職種間の連携、チームアプローチについて理解し行動できる。		
	3	変則時間帯の実習		1. 実習期間中に早番・遅番の実習を行う。 2. 実習期間中に夜勤実習を行う。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。		
	4	日常生活支援技術		1. 指導者の指導のもと、利用者一人ひとりに応じた生活支援を身につける。 2. 介護の実践を通して、安全で自立に向けた根拠ある介護ができる。		
	履修上の留意点					
	出席率が5分の4に満たない場合は、単位を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	介護実習Ⅱ-②			指導担当者名	
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科 年
授業方法	講義:	演習:		実習:○	実技:
単位数	4単位	総時間数	184時間	週時間数	40時間
学習到達目標	利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活の実現に向けた生活支援について理解する。 1. その人らしい生活を尊重した介護過程の展開により、介護を必要とする方のニーズを探求できる。 2. 介護を必要とする方一人ひとりに応じた根拠のある生活支援技術を身につける。 3. 安全性、快適さ、自立(自律)に配慮した生活支援を実践できる。 4. 介護目標・支援内容を理解したうえで、チームの一員として生活支援を実践できる。				
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況、実習指導者評価、実習担当教員評価を総合的に判断し評価する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)				
使用教材	なし				
授業外学習の方法					
学期	週	項目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション		1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。 2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。 4. 実習目標の確認および、毎日の目標設定の提示と確認できる。 5. 実習記録の取り扱い・提出方法について、自ら管理できる。	
		介護過程		1. 利用者のニーズを理解し、介護計画の立案・実施・評価の過程を学ぶ。 2. 介護過程記録をもとに一連の介護過程について理解する。	
	2	申し送り・ミーティング等の参加		1. 申し送りやミーティング等の参加を通して、チームケアについて学ぶ。 2. 施設の運営や組織について理解を深める。	
	3	サービス担当者会議、カンファレンス等の参加		1. 施設内での介護計画の立案・実施・評価の一連の過程を学ぶ。 2. 多職種間の連携、情報の共有化について学ぶ。	
	4	変則時間帯の実習		1. 実習期間中に早番・遅番の実習を行う。 2. 実習期間中に夜勤実習を行う。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。	
		レクリエーションの計画・実施・評価		1. 指導者の指導のもと実際にレクリエーションの計画・実施・評価を行う。	
5	日常生活支援技術		1. 指導者の指導のもと、利用者一人ひとりに応じた生活支援を理解する。 2. 介護の実践を通して、自立に向けた根拠のある介護について理解する。		
履修上の留意点					
出席率が5分の4に満たない場合は、単位を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	発達と老化の理解			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>人間の成長・発達の観点から加齢(老化)について理解し、老年期の発達課題や老化に伴うことからの変化の特徴に関する基礎的知識を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達には個人差があり、遺伝や環境の影響が大きいことを学ぶ。 2. 人間の成長と発達を理解するために、発達段階や発達課題などについて学ぶ。 3. 老化に伴う身体変化の特徴とその対応について学ぶ。 4. 高齢者に多い病気の特徴および介護のポイントについて学ぶ。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	人間の成長と発達の基礎的知識		成長・発達の考え方	
	2	人間の発達段階と発達課題-I		発達理論	
	3	人間の発達段階と発達課題-II		身体的機能の成長と発達	
	4	人間の発達段階と発達課題-III		心理的機能の発達	
	5	人間の発達段階と発達課題-IV		社会的機能の発達	
	6	老年期の特徴と発達課題-I		老年期の定義	
	7	老年期の特徴と発達課題-II		老年期の発達課題	
	8	老化にともなうことからの変化と生活-I		加齢による生理機能の全体的変化	
	9	老化にともなうことからの変化と生活-II		感覚器系の機能の変化と生活への影響	
	10	老化にともなうことからの変化と生活-III		消化器系の機能の変化と生活への影響	
	11	老化にともなうことからの変化と生活-IV		認知機能の変化	
	12	老化にともなうことからの変化と生活-V		パーソナリティ(性格)の変化	
	13	老化にともなうことからの変化と生活-VI		老化にともなう社会的な変化と生活への影響	
	14	高齢者と健康 I		健康長寿に向けての健康	
	15	高齢者と健康 II		高齢者の症状・疾患の特徴	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	発達と老化の理解			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	16	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅰ		骨格系・筋系	
	17	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅱ		脳・神経系	
	18	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅲ		皮膚・感覚器系	
	19	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅳ		循環器系	
	20	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅴ		呼吸器系	
	21	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅵ		消化器系	
	22	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅶ		腎・泌尿器系	
	23	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅷ		内分泌・代謝系	
	24	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅸ		歯・口腔疾患	
	25	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅹ		悪性新生物	
	26	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅺ		感染症	
	27	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅻ		精神疾患	
	28	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点ⅩⅢ		熱中症、脱水、貧血	
	29	保健医療職との連携		多職種との連携	
30	まとめ		授業の振り返りとまとめ		
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	認知症の理解			指導担当者名	海津 智宏	
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年		介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	認知症に関する基礎的知識を学ぶとともに、認知症の特性を理解し介護の視点を学ぶ。さらに共に暮らす家族への支援と社会制度や地域福祉について理解する。 1. 医学的側面から見た認知症の基礎を理解できるようにする。 2. 認知症高齢者の特徴的な心理、行動を理解し、対応法を学ぶ。 3. 家族の介護負担を理解し、多職種連携の必要性、重要性を学ぶ。 4. 認知症の人が安全に生活できるための制度・関係機関を知る。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解(中央法規)					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	認知症の基礎的理解Ⅰ		1. 認知症とは何か(認知症の定義、診断基準、特徴)		
	2	認知症の基礎的理解Ⅱ		1. 脳のしくみ(脳の構造・機能、認知症の病理)		
	3	認知症の基礎的理解Ⅲ		1. 認知症の人の心理(不安や喪失感、病識の低下)		
	4	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅰ		1. 中核症状の理解①(記憶障害、見当識障害、遂行機能障害など)		
	5	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅱ		1. 中核症状の理解②(失語・失行・失認など)		
	6	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅲ		1. 生活障害の理解(ADL障害とIADL障害、社会参加)		
	7	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅳ		1. BPSDの理解①(BPSDの定義・要因・誘因)		
	8	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅴ		1. BPSDの理解②(主要なBPSD～徘徊、不穏、拒否、暴言など)		
	9	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅵ		1. 認知症の診断と重症度(認知症の評価尺度)		
	10	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅶ		1. 認知症の原因疾患と症状・生活障害①(アルツハイマー型、血管性認知症など)		
	11	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅷ		1. 認知症の原因疾患と症状・生活障害②(若年性認知症、治療可能な認知症)		
	12	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅸ		1. 認知症の治療薬(観察や対応時の注意点)		
	13	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅹ		1. 認知症の予防(予防の考え方、リスクを高める要因と下げる要因)		
	14	障害をかかえて生きることへの支援Ⅰ		1. 認知症を取り巻く状況(認知症ケアの歴史)		
	15	障害をかかえて生きることへの支援Ⅱ		1. 認知症ケアの理念と視点(認知症ケアの現状と倫理について)		
履修上の留意点						
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。						

授業計画(シラバス)

科目名	認知症の理解			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	認知症に関する基礎的知識を学ぶとともに、認知症の特性を理解し介護の視点を学ぶ。さらに共に暮らす家族への支援と社会制度や地域福祉について理解する。 1. 医学的側面から見た認知症の基礎を理解できるようにする。 2. 認知症高齢者の特徴的な心理、行動を理解し、対応法を学ぶ。 3. 家族の介護負担を理解し、多職種連携の必要性、重要性を学ぶ。 4. 認知症の人が安全に生活できるための制度・関係機関を知る。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	16	障害をかかえて生きることへの支援Ⅲ		1. 認知症当事者の視点からみえるもの (認知症による体験が生活に及ぼす影響、思いを尊重したサポート方法)	
	17	障害をかかえて生きることへの支援Ⅳ		1. 認知症の人の体験を事例を基に考える	
	18	認知所ケアの実際Ⅰ		1. パーソン・センタード・ケア(聞く・集める・見つけるの3つのステップ)	
	19	認知所ケアの実際Ⅱ		1. 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール (ひもときシートの活用)	
	20	認知所ケアの実際Ⅲ		1. 認知症の人とのコミュニケーション (認知症の人の特性に配慮したコミュニケーションの留意点)	
	21	認知所ケアの実際Ⅳ		1. 認知症の人へのケア①(食事・排泄・入浴などのケア)	
	22	認知所ケアの実際Ⅴ		1. 認知症の人へのケア②(BPSDのケア)	
	23	認知所ケアの実際Ⅵ		1. 認知症の人へのさまざまなアプローチ (ユマニチュード、バリデーション、回想法など)	
	24	認知所ケアの実際Ⅶ		1. 認知症の人の終末期医療と介護(終末期の特徴、課題と支援)	
	25	認知所ケアの実際Ⅷ		1. 環境づくり(環境が与える影響、環境づくりのポイント)	
	26	介護者支援Ⅰ		1. 家族への支援(家族の心理過程と葛藤、レスパイトケア)	
	27	介護者支援Ⅱ		1. 介護福祉職への支援(働きやすい職場環境の整備)	
	28	認知症の人の地域生活支援Ⅰ		1. 制度、サービス、機関、地域づくり (オレンジプランの推移、認知症サポーター、認知症カフェなど)	
	29	認知症の人の地域生活支援Ⅱ		1. 多職種連携と協働 (認知症ケアに携わる多職種、認知症ライフサポートモデル)	
	30	まとめ		1. 授業の振り返りとまとめ	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	障がいの特性			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	障がいの概念、及び基本的理念を理解する。また、さまざまな障害の特性を理解し、その障害に応じた個別支援が実践できるよう、その方法について学ぶ。 1. 障害の概念、障害者福祉の基本的理念を理解する。 2. 障害に関する医学的側面の理解及び、障害が及ぼす日常生活への影響を理解する。 3. 多職種との協働・連携について理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座13 障害の理解 (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	障害の概念と障害者福祉の基本的理念①		障害のとらえ方、ICIDHからICFへの変遷 障害者の定義	
	2	障害の概念と障害者福祉の基本的理念②		障害者福祉の基本的理念 (ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン)	
	3	障害の概念と障害者福祉の基本的理念③		障害者福祉に関する制度 (障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法)	
	4	障害の概念と障害者福祉の基本的理念④		障害者福祉制度と介護保険制度 (障害者福祉サービスと介護保険サービス)	
	5	障害のある人の心理		人間の欲求、適応機制、障害受容	
	6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援①		肢体不自由[運動機能障害] (身体的特性の理解、原因疾患、心理的・生活的側面の理解、障害に応じた支援)	
	7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援②		視覚障害 (視覚障害の種類、障害の原因、障害の特性、障害に応じた支援)	
	8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援③		聴覚障害 (聴覚の程度による分類、障害の原因、障害の特性、障害に応じた支援)	
	9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援④		言語障害 (言語障害の分類、障害の原因、障害の特性、障害に応じた支援)	
	10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑤		重複障害 (障害の原因、障害の種類、重複障害児への支援)	
	11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑥ ～内部障害～		心臓機能障害 (心臓機能障害とは、障害の原因、障害の特性、障害に応じた支援)	
	12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑦ ～内部障害～		呼吸器障害 (呼吸器障害とは、障害の原因と症状、治療の方法、障害の特性と 支援方法)	
	13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑧ ～内部障害～		腎臓機能障害 (腎臓機能障害とは、障害の原因と症状、治療の方法、障害の特性と 支援方法)	
	14	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑨ ～内部障害～		膀胱・直腸機能障害 (障害の症状と原因、治療と管理、障害の特性と支援方法)	
	15	まとめ		前期の振り返りとまとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	障がいに応じた支援			指導担当者名	海津 智宏
実務経験	リハビリテーション病院にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	障害のある人の生活・心理を理解する。また、障害の特性を理解した上での生活支援のあり方について学ぶ。 1. 障害の状況による生活上の困難と制約を理解する。 2. 障害をもつ利用者の生活を支援する方法と留意点を理解する。 3. 多職種との連携と協働、チームアプローチのあり方、地域のサポート体制について理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	新・介護福祉士養成講座13 障害の理解 (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑩ ～内部障害～		小腸機能障害 (障害の症状と原因、治療と管理、障害の特性と支援方法)	
	2	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑪ ～内部障害～		ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 (障害の症状と原因、治療の方法、障害の特性に応じた支援、感染対策)	
	3	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑫ ～内部障害～		肝臓機能障害 (障害の症状と原因、治療の方法、障害の特性に応じた支援、感染対策)	
	4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑬		重症心身障害 (重症心身障害とは、障害の原因と分類、障害の特性と応じた支援)	
	5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑭		知的障害 (知的障害とは、障害の原因、障害に応じた支援、ライフステージに応じた関わり方)	
	6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑮		精神障害 (精神障害とは、障害の種類、障害の特性と応じた支援)	
	7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑯		高次脳機能障害 (高次脳機能障害とは、障害の原因、障害の特性と応じた支援)	
	8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑰		発達障害 (発達障害とは、障害ごとの特性と生活支援、保護者への支援、支援機関)	
	9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑱		難病 (難病とは、おもな難病、難病の特性と応じた支援)	
	10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑲		難病 (難病とは、おもな難病、難病の特性と応じた支援)	
	11	連携と共同①		地域のサポート体制 (社会資源、障害福祉サービスのしくみ、相談支援事業等との連携)	
	12	連携と共同②		チームアプローチ (チームづくりの方法、コンフリクト、保健医療関係職種の仕事)	
	13	家族への支援①		家族への支援とは (障害のある人の家族への支援、障害の受容、家族の人生計画の変更)	
	14	家族への支援②		家族の介護力の評価と介護負担の軽減 (家族の介護力の評価、家族の介護力をふまえた支援)	
	15	まとめ		後期のふりかえりとまとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	からだのしくみ			指導担当者名	茂木 光代
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科 年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能を理解するとともに、介護上における安全への留意点や心理的側面への配慮について学ぶ。 1. 体の解剖学的構造を理解する。 2. こととからだの関係について理解する。 3. 老化や疾病が体に及ぼす影響について理解するとともに、介護実践との関連を学ぶ。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、授業態度、ミニテスト等を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新介護福祉全書 こととからだのしくみ(メヂカルフレンド社)、 ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	健康の概念		1. オリエンテーション 2. 健康の定義 3. 心身の調和(欲求・適応)	
	2	生命の維持		1. 生命の維持と恒常性(ホメオスタシス) 2. 自律神経の働き 3. バイタルサイン	
	3	からだの構造		1. 身体各部の名称と役割 2. 主な骨・筋肉の名称と構造	
	4	からだの動き		1. 身体各部の名称と役割 2. 関節のと構造と関節可動域 3. 活動・移動の意味	
	5	からだの動き		1. ボディメカニクスの理解 2. 敏捷性とバランス 3. 姿勢と肢位	
	6	脳・神経		1. 脳の構造 2. 脳幹部、大脳皮質の働き 3. 情報伝達と記憶のしくみ	
	7	感覚器		1. 眼の構造と働き 2. 耳の構造と働き 3. 鼻の構造と働き	
	8	感覚器		1. 眼の構造と働き 2. 耳の構造と働き 3. 鼻の構造と働き	
	9	感覚器		1. 皮膚の構造と働き(皮膚・爪・髪) 2. 口腔の構造と働き 3. 加齢に伴う機能の変化	
	10	感覚器		1. 皮膚の構造と働き(皮膚・爪・髪) 2. 口腔の構造と働き 3. 加齢に伴う機能の変化	
	11	循環器		1. 心臓・血管の構造 2. 血液成分の名称と働き 3. 加齢に伴う機能の変化	
	12	呼吸器		1. 呼吸器の構造と名称 2. 加齢に伴う機能の変化	
	13	消化器		1. 消化器系の構造と名称 2. 栄養素の消化吸収 3. 肝臓、膵臓の働き	
	14	泌尿器		1. 泌尿器系の構造と名称 2. 尿の生成と排泄 3. 加齢に伴う機能の変化	
	15	補足及びまとめ		1. 授業の補足 2. 全体的なまとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	こころとからだ I			指導担当者名	千葉 智子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科 1年
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	身じたく、移動、食事にかかわる介護技術について、その根拠となる人体の構造や機能さらに介護サービスの提供における安全への留意点や、心理的な面への配慮について理解する。 1. 心身の機能低下がおよぼす身じたく、移動、食事への影響を学び、介護実践に役立てる。 2. 日常生活におけるこころとからだの変化と、観察のポイントを習得する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新介護福祉全書 こころとからだのしくみ(メヂカルフレンド社)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	身じたくに関連したこころとからだのしくみ-I		1. オリエンテーション 2. 身じたくに関連したこころとからだの基礎知識	
	2	身じたくに関連したこころとからだのしくみ-II		1. 身じたくに関連したこころとからだの基礎知識	
	3	身じたくに関連したこころとからだのしくみ-III		1. 見じたくに関連したこころとからだのしくみ	
	4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ-IV		1. 機能の低下・障害が及ぼすみじたくへの影響 2. 生活場面におけるこころとからだの変化への気づき	
	5	移動に関連したこころとからだのしくみ-I		1. 移動に関連したこころとからだの基礎知識	
	6	移動に関連したこころとからだのしくみ-II		1. 移動に関連したこころとからだのしくみ	
	7	移動に関連したこころとからだのしくみ-III		1. 移動に関連したこころとからだのしくみ	
	8	移動に関連したこころとからだのしくみ-IV		1. 移動に関連したこころとからだのしくみ 2. ボディメカニクス	
	9	移動に関連したこころとからだのしくみ-V		1. 機能の低下・障害が及ぼす活動・移動への影響	
	10	移動に関連したこころとからだのしくみ-VI		1. 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	
	11	食事に関連したこころとからだのしくみ-I		1. 食事に関連したこころとからだの基礎知識	
	12	食事に関連したこころとからだのしくみ-II		1. 食事に関連したこころとからだのしくみ	
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ-III		1. 機能の低下・障害が及ぼす食事への影響	
	14	食事に関連したこころとからだのしくみ-IV		1. 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	
	15	食事に関連したこころとからだのしくみ-V		まとめ	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	こころとからだⅡ			指導担当者名	千葉 智子
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科 1年
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	入浴、排泄、睡眠にかかわる介護技術について、その根拠となる人体の構造や機能さらに介護サービスの提供における安全への留意点や、心理的な面への配慮について理解する。 1. 心身の機能低下がおよぼす入浴、排泄、睡眠への影響を学び、介護実践に役立てる。 2. 日常生活におけるこころとからだの変化と、観察のポイントを習得する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新介護福祉全書 こころとからだのしくみ(メヂカルフレンド社)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	排泄に関連したしくみⅠ		1. 排泄に関連したこころとからだの基礎知識	
	2	排泄に関連したしくみⅡ		1. 排泄に関連したこころとからだのしくみ	
	3	排泄に関連したしくみⅢ		1. 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響	
	4	排泄に関連したしくみⅣ		1. 生活場面におけるこころとからだの変化への気づき	
	5	排泄に関連したしくみⅤ		1. 生活場面におけるこころとからだの変化への気づき 2. まとめ	
	6	入浴・清潔保持に関連したしくみⅠ		1. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識	
	7	入浴・清潔保持に関連したしくみⅡ		1. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	
	8	入浴・清潔保持に関連したしくみⅢ		1. 機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響	
	9	入浴・清潔保持に関連したしくみⅣ		1. 生活場面におけるこころとからだの変化に気づき	
	10	入浴・清潔保持に関連したしくみⅤ		1. 生活場面におけるこころとからだの変化に気づき 2. まとめ	
	11	睡眠に関連したしくみⅠ		1. 睡眠に関連したこころとからだの基礎知識	
	12	睡眠に関連したしくみⅡ		1. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ	
	13	睡眠に関連したしくみⅢ		1. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 2. 生活習慣と睡眠	
	14	睡眠に関連したしくみⅣ		1. 機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響 2. 医療との関係	
	15	「こころとからだのしくみ」まとめ		1. 「こころとからだのしくみ」振り返り	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	ターミナルケア			指導担当者名	千葉 智子
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年		介護福祉学科 2年
授業方法	講義:○		演習:		実習: 実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	死に直面した人やその家族が持つ様々な問題や苦痛を理解し、安らかな死を迎えるために必要な介護支援技術について学ぶ。 1. 死にゆく人のこころとからだのしくみについて理解する。 2. 安楽の介護支援に関連したからだのしくみについて理解する。 3. 在宅や施設における介護福祉士としての役割が理解できる。 4. 医療職を中心とした多職種との協働のあり方を理解する。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新介護福祉全書 こころとからだのしくみ12 (メヂカルフレンド社)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	終末期の意味と概念		1. 死の意味と概念について考える□ 2. 生きることの意味	
	2	人間の死の捉え方Ⅰ		1. 地域における死と死後に関する因習□ 2. 死ぬということ、死のイメージ(親の死・自分の死)	
	3	人間の死の捉え方Ⅱ		1. 地域における死と死後に関する因習 2. 死ぬということ、死のイメージ(親の死・自分の死)□B. 事例を通して考える	
	4	人間の死の捉え方Ⅲ		1. 地域における死と死後に関する因習 2. 死ぬということ、死のイメージ(親の死・自分の死)□B. 事例を通して考える	
	5	尊厳死		1. その人らしく迎える「死」	
	6	終末期から「死」までの変化と特徴		1. 終末期の変化の特徴□ 2. 身体機能の変化	
	7	臨終時の対応		1. 死後の身体変化 2. 死後の処置・連絡□ 3. エンゼルメイク	
	8	死に対する心の理解		1. キューブラー・ロスの死に対する五つの段階	
	9	死に対する家族へのケア		1. 家族の死を受容する段階□ 2. 遺族へのサポート・心のケア	
	10	在宅での看取り		1. 在宅ターミナルケアの長所・短所 2. 在宅のターミナルケアに必要な視点□ 3. 在宅での緊急時の対応と応急処置	
	11	多様な場での終末期ケア		1. 特別養護老人ホーム、グループホーム等での終末期の看取り□ 2. 読み聞かせを通して終末期を理解する	
	12	多様な場での終末期ケア		1. 特別養護老人ホーム、グループホーム等での終末期の看取りと介護福祉士の役割	
	13	医療職と連携のポイント		1. 終末期における他種医療職と介護職の役割 2. チームアプローチ	
	14	死や終末期ケアをめぐる現代医療の課題		1. 延命治療、安楽死等に関わる課題□ 2. 終末期ケアをになう医療従事者のケア	
	15	まとめ		1. まとめ	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケア I			指導担当者名	茂木 光代
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>介護福祉士が、安全で適切にたんの吸引・経管栄養を行うために必要な基礎を身につける。</p> <p>1. 医行為に関する法律、倫理、医療従事者との連携について理解する。</p> <p>2. 安全な療養生活の提供方法について理解する。</p> <p>3. 清潔保持と感染予防について理解することで、自己の健康管理や感染予防ができる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、授業態度、ミニテスト等を総合し、100点法で点数化して行う。</p> <p>100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	医療的ケア		1. 医療的ケアとは□ 医療提供体制の変遷□ 3. 社会福祉士及び介護福祉士法の改正	
	2	人間と社会		1. 個人の尊厳と自立 2. 医療の倫理□ 3. 利用者や家族の気持ちの理解	
	3	保健医療制度とチーム医療		1. 保健医療に関する制度□ 2. チーム医療と介護職員との連携	
	4	安全な療養生活(1)		1. リスクマネジメント、ヒヤリハット□ 2. 痰の吸引における安全な実施	
	5	安全な療養生活(2)		1. リスクマネジメント、ヒヤリハット□ 2. 経管栄養における安全な実施	
	6	安全な療養生活(3)		1. 救急蘇生法	
	7	安全な療養生活(4)		1. 救急蘇生法	
	8	清潔保持と感染予防(1)		1. 感染予防□ 2. 職員の感染予防	
	9	清潔保持と感染予防(2)		1. 療養環境の清潔、消毒法□ 2. 滅菌と消毒	
	10	健康状態の把握(1)		1. 健康状態の把握□ 2. バイタルサイン	
	11	健康状態の把握(2)		1. 身体・精神の健康□ 2. 急変状態について	
	12	健康状態の把握(3)		1. 高齢者によくみられる身体症状の特徴□ (脱水、浮腫、痒み、痛み、発熱、嘔吐、倦怠感)	
	13	医療的生活支援(1)		1. 創傷の処置とガーゼ交換 2. 服薬に関する支援□ 3. 清潔に関する支援(爪切り、口腔ケア、耳垢の除去)	
	14	医療的生活支援(2)		1. 排泄に関する支援□ ・パウチにたまった排泄物の除去□自己導尿	
	15	補足及びまとめ		授業の補足及びまとめ	
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅡ			指導担当者名	千葉 智子・茂木 光代
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科 2年
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	介護福祉士が、安全で適切に痰の吸引を行うために必要な基礎を身につける。 1. 医行為に関する法律・倫理・医療従事者との連携について理解する。 2. 安全で適切なたんの吸引の方法・留意点について理解する。 3. 安全で適切なたんの吸引の技法を身につける。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、授業態度、実技試験等を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論		1. 呼吸のしくみとはたらき口 2. いつもと違う呼吸状態	
	2	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論		1. たんの吸引とは口 2. 人工呼吸器と吸引	
	3	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論		1. こどものたんの吸引口 2. 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	
	4	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論		1. 呼吸器の感染と予防(吸引と関連して)口 2. たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認	
	5	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論		1. 急変・事故発生時の対応と事前対策	
	6	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順		1. たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持口 2. たんの吸引に伴うケア	
	7	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順		1. 吸引の技術と留意点	
	8	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順		1. 吸引の技術と留意点口 2. 報告及び記録	
	9	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順		1. 吸引の技術と留意点口 2. 報告及び記録	
	10	たんの吸引(口腔内)		1. 口腔内吸引	
	11	たんの吸引(口腔内)		1. 口腔内吸引	
	12	たんの吸引(鼻腔内)		1. 鼻腔内吸引	
	13	たんの吸引(鼻腔内)		1. 鼻腔内吸引	
	14	たんの吸引(気管カニューレ内)		1. 気管カニューレ内吸引	
	15	たんの吸引(気管カニューレ内)		1. 気管カニューレ内吸引	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅢ			指導担当者名	千葉 智子・茂木 光代
実務経験					実務経験:
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科 2年
授業方法	講義:○	演習:		実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	介護福祉士が、安全で適切に経管栄養を行うために必要な技法を身につける。 1. 安全で適切な経管栄養の方法・留意点について理解する。 2. 安全で適切な経管栄養の技法を身につける。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、授業態度、実技試験等を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論		1. 消化器系のしくみとはたらき	
	2	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論		1. 消化・吸収とよくある消化器の症状	
	3	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論		1. 経管栄養法とは□ 2. 注入する内容に関する知識	
	4	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論		1. 経管栄養実施上の留意点□ 2. こどもの経管栄養について	
	5	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論		1. 経管栄養に関する感染と予防□ 2. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	
	6	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論		1. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認□ 2. 急変・事故発生時の対応と事前対策	
	7	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順		1. 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持□ 2. 経管栄養に必要なケア	
	8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順		1. 経管栄養の技術と留意点	
	9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順		1. 経管栄養の技術と留意点	
	10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順		1. 経管栄養の技術と留意点□ 2. 報告及び記録	
	11	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順		1. 経管栄養の技術と留意点□ 2. 報告及び記録	
	12	経管栄養(胃ろう)		1. 胃ろうの経管栄養	
	13	経管栄養(胃ろう)		1. 胃ろうの経管栄養	
	14	経管栄養(経鼻)		1. 経鼻経管栄養	
	15	経管栄養(経鼻)		1. 経鼻経管栄養	
	16				
履修上の留意点					
出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					